EPSON
EXCEED YOUR VISION

TM-C3500

開発者ガイド

ご使用の前に

プリンターの機能と使い方

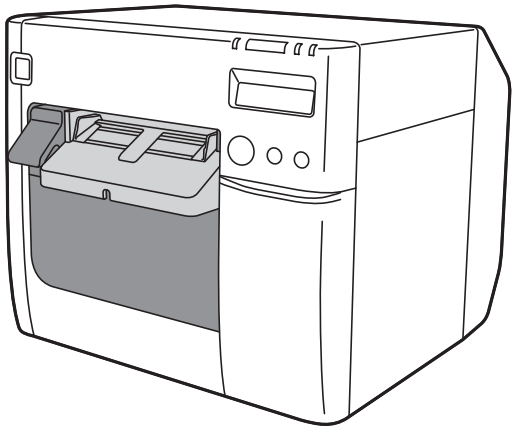
プリンタードライバーの機能と使い方

アプリケーション開発情報

用紙の設計

プリンター管理

付録



M00107601
Rev.B

ご使用の前に

本章では、本製品をご使用いただく前に知っておいていただきたい情報について説明しています。

本製品マニュアルの使い方

紙のマニュアル

はじめにお読みください

本製品を取り扱う上での注意事項を記載しています。安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、ご使用の前には必ずお読みください。また、同梱品の確認・設置・セットアップの方法についても説明しています。

パソコンで見るマニュアル

ユーザーズガイド

本製品とソフトウェアの機能・操作方法、メンテナンスに関する情報や各種トラブルの解決方法について説明しています。

パソコンで見るマニュアル

開発者ガイド（本書）

本製品のシステム開発に必要な情報を説明しています。
付属の CD から閲覧できます。

最新版のダウンロード

プリンタードライバー、ユーティリティー、マニュアル類の最新版は、下記 URL からダウンロードできます。

＜ http://www.epson.jp/support/ ＞

本文中のマークについて

本書では、以下のマークを用いて重要な事項を記載しています。

注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および財産の損害の可能性が想定される内容を示しています。
重要	ご使用上、必ずお守りいただきたいことを記載しています。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の故障や動作不良の原因になる可能性があります。
参考	補足説明や知っておいていただきたいことを記載しています。
☞	関連した内容の参照ページを示しています。

製品とドライバーのバージョン

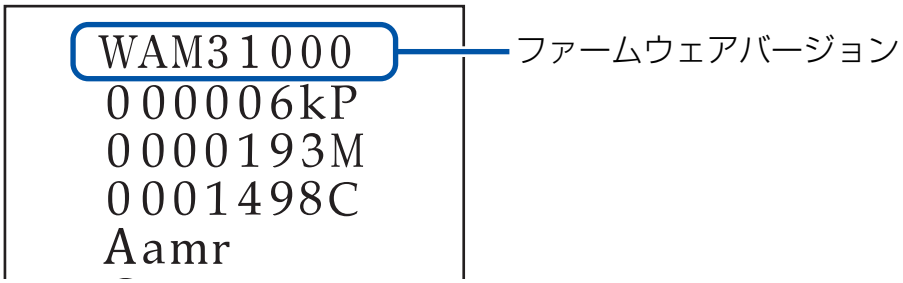
本書では、特に指定がない限り、以下のバージョンについての説明をしています。

製品ファームウェア：　WAM31000

プリンタードライバー：　Ver.2.0.0.0

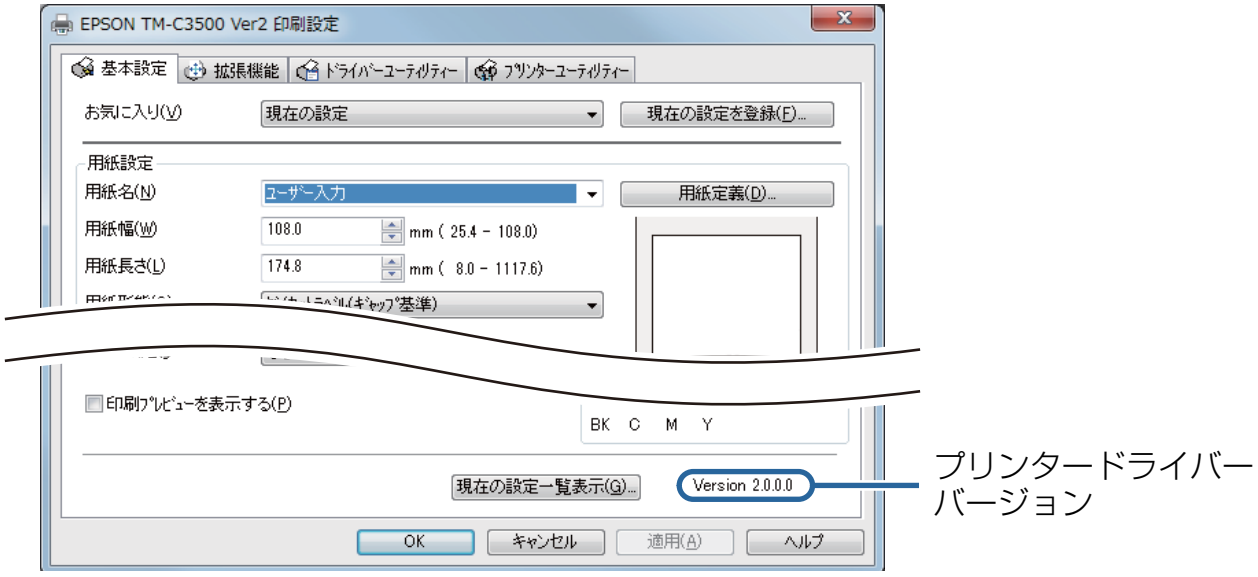
製品のバージョン確認方法

セルフテスト印刷で、お使いの製品ファームウェアのバージョンを確認できます。セルフテスト印刷結果の最初の行を確認してください。セルフテスト印刷の方法は、ユーザーズガイドをご覧ください。



プリンタードライバーのバージョン確認方法

プリンタードライバーの画面でバージョンを確認できます。



掲載画面

お使いの製品および OS によって、本文中の表記と実際に表示される Windows の画面が異なる場合があります。本書では、特に指定がない限り TM-C3500 使用時の Windows 7 の画面を掲載しています。

もくじ

ご使用の前に 2

■本製品マニュアルの使い方 2
最新版のダウンロード 2
本文中のマークについて 3
■製品とドライバーのバージョン.....4
製品のバージョン確認方法.....4
プリンタードライバーのバージョン確認方法.....4
■掲載画面 5
■もくじ 6

プリンターの機能と使い方.....8

■電源ボタンの誤操作防止 8
■電源ボタンを無効にする 9
■PrinterSetting の保存と復元..... 10
設定の保存.....11
設定の復元.....11

プリンタードライバーの機能と使い方.....12

■バーコード /2 次元シンボルを印刷する .. 12
バーコード /2 次元シンボル設定.....13
フォントの置き換え 20
アプリケーションから印刷.....21
紙送り位置の確認 30
■お気に入り 31
お気に入りの画面構成 31
お気に入りの登録.....32
■設定ファイルの書き出し / 取り込み..... 34
BSF ファイルに書き出される設定 34
BSF ファイルに書き出されない設定.....34
設定の書き出し.....35
設定の取り込み.....36

アプリケーション開発情報.....37

■Epson Inkjet Label Printer SDK 37

用紙の設計.....38

■使用できる用紙の種類 38
使用できない用紙 39
■用紙の頭出し検出 40
検出方法..... 40
用紙の制限事項 41
■用紙仕様.....43
連続紙..... 43
連続紙（ブラックマーク基準）..... 44
全面ラベル..... 46
ダイカットラベル（ギャップ基準）..... 47
ダイカットラベル（ブラックマーク基準)..... 49
リストバンド..... 53
■印刷位置とカット位置 55
連続紙・ロール紙 55
連続紙（ブラックマーク基準）・ロール紙..... 57
連続紙（ブラックマーク基準）・
ファンフォールド紙 59
全面ラベル・ロール紙 61
ダイカットラベル（ギャップ基準）・ロール紙 63
ダイカットラベル（ブラックマーク基準）・
ロール紙..... 65
ダイカットラベル（ブラックマーク基準）・
ファンフォールド紙 67
リストバンド・ロール紙（WB-S シリーズ）... 69
リストバンド・ロール紙（WB-M シリーズ)... 71
リストバンド・ロール紙（WB-L シリーズ).... 74
■印刷しないラベルを発生させないための
用紙加工.....77
給紙時に 1 枚目のラベルから印刷する 77
最後のラベルに印刷する..... 80

プリンター管理 83

■ソフトウェア 83
■プリンターを効率的にセットアップする . 84
インク充てん前に本製品を設定する 84
複数のプリンターを効率的に設定する 85
■プリンタードライバーを効率的に設定する86
インストールパッケージの作成.....86
クライアントコンピューターの作業 86
■効率的なシステム管理 87
プリンターの監視 87
プリンターの設定を変更する.....89
プリンタードライバーの設定を変更する 90
プリンタードライバーの USB ポートを
自動で変更.....91

付録 95

■ご注意 95
■商標..... 95

プリンターの機能と使い方

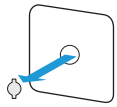
本章では、本製品の機能と使い方について説明しています。

電源ボタンの誤操作防止

付属のパワースイッチカバーを本製品に取り付けることで、使用者が電源ボタンを誤って押すことを防ぎます。パワースイッチカバーの穴にボールペンなどの先の細いものを差し込むことによって、本製品の電源をオン / オフにできます。

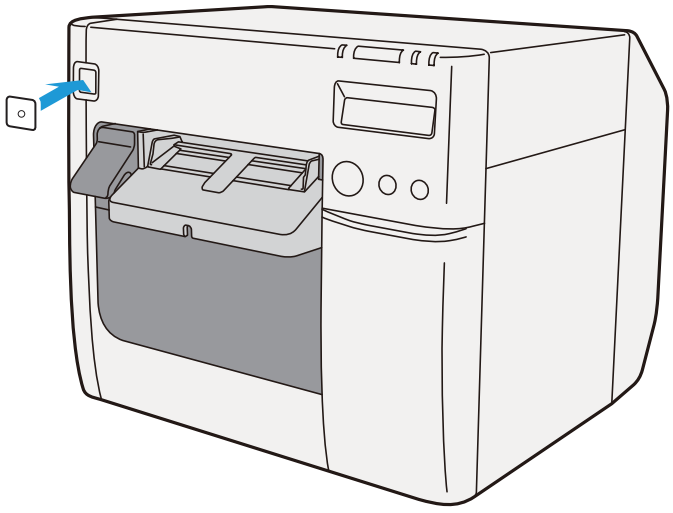
以下の手順で、パワースイッチカバーを取り付けます。

1 パワースイッチカバーの真ん中を、先の細い堅いもので突いて穴を開けます。



2 パワースイッチカバーの両面テープの剥離紙を剥がします。

3 本製品の電源ボタンの上から、パワースイッチカバーを貼りつけます。



電源ボタンを無効にする

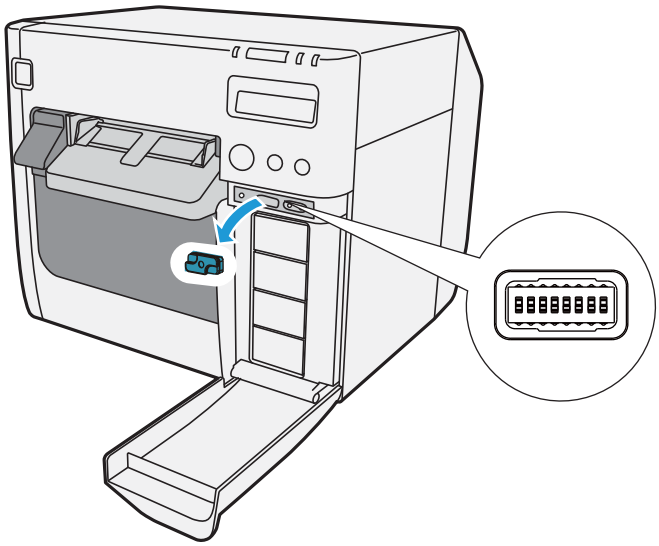
電源が常にオンの状態になるように、電源ボタンの操作を無効にすることができます。電源を無効にした状態で電源ボタンを押すと、電源をオフにすることなく本製品をリセットできます。

以下の手順で、電源ボタンを無効にします。

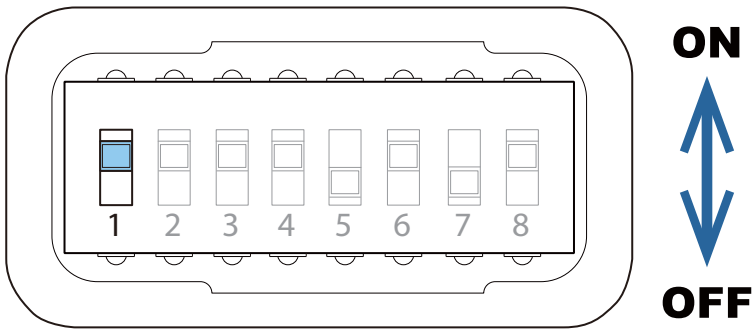
⚠ 注意	ディップスイッチのカバーを外す場合、本製品の電源をオフにしてください。 電源がオンの状態でカバーを外すと、ショートして本製品が故障するおそれがあります。

1 本製品の電源がオフになっていることを確認します。

2 インクカートリッジカバーを開き、ディップスイッチのカバーを外します。



3 先の細いものを使って、ディップスイッチを操作します。
ディップスイッチは左から順に番号が振られています。上側が ON、下側が OFF の状態です。ディップスイッチ 1 を ON にします。



4 ディップスイッチのカバーを取り付け、インクカートリッジカバーを閉じます。

PrinterSettingの保存と復元

PrinterSettingとは、Windowsコンピューターから本製品の設定をするためのユーティリティーです。PrinterSettingで設定した内容は、設定ファイルに保存できます。設定ファイルは、バックアップファイルや複数のプリンターを導入する場合のマスターファイルとして活用できます。

✓: 保存できる項目
-: 保存できない項目

メニュー		設定項目	保存可否
基本設定	用紙の設定	給紙装置の設定	✓
		用紙検出方法の設定	✓
	プリンター動作の設定	印刷動作モードの設定	✓
		用紙頭出し動作の設定	✓
高度な設定	通知設定	エラー発生時のブザー通知設定	✓
		インク残量少 LED 通知設定	✓
		用紙違い通知設定	✓
	パネルボタンの設定	パネルボタンの設定	✓
	動作時間の設定	プラテン吸引動作休止時間の設定 データ待ち時間の設定	✓
プリンターの調整	紙送りの調整	カット位置の調整 印刷開始位置の調整（垂直方向） 印刷開始位置の調整（水平方向）	✓
	センサーの調整	ラベル間ギャップ検出センサーの調整 ブラックマーク検出センサーの調整	-
	プリントヘッドの調整	紙送りのずれの調整 双方向印刷のずれの調整	-
オプション		給紙装置設定オプション	-

設定の保存

以下の手順で設定を保存します。

1. プリンタードライバーを表示します。
2. **プリンターユーティリティー**タブを選択し、**プリンターの設定**をクリックします。
   TM-C3500 PrinterSetting 画面が表示されます。
3. **設定の保存と復元**を選択します。
   設定の保存と復元画面が表示されます。
4. 本製品から設定値を取得できた場合、現在の設定に取得した値が表示されます。
5. **設定の保存**をクリックします。
   名前を付けて保存画面が表示されます。
6. ファイル名と保存先を指定し、**保存**をクリックします。

成功メッセージが表示されたら、設定の保存は終了です。

設定の復元

以下の手順で設定を復元します。

1. プリンタードライバーを表示します。
2. **プリンターユーティリティー**タブを選択し、**プリンターの設定**をクリックします。
   TM-C3500 PrinterSetting 画面が表示されます。
3. **設定の保存と復元**を選択します。
   設定の保存と復元画面が表示されます。
4. **設定の復元**をクリックします。
   開く画面が表示されます。
5. 復元する設定ファイルを指定し、**開く**をクリックします。
   確認画面が表示されます。
6. OK をクリックします。復元が開始されます。
7. 復元が終わると、メッセージが表示されます。OK をクリックします。

成功メッセージが表示されたら、設定の復元は終了です。

プリンタードライバーの機能と使い方

本章では、プリンタードライバーの機能の説明と使い方について説明しています。

バーコード /2 次元シンボルを印刷する

ここでは、プリンタードライバーのバーコード /2 次元シンボルフォントを利用して、バーコード /2 次元シンボルを印刷する方法を説明します。バーコード /2 次元シンボルフォントを利用すると、本製品の解像度に適した読み取り率の高いバーコード /2 次元シンボルを印刷できます。

設定の流れは以下のとおりです。

バーコード /2 次元シンボル設定

プリンタードライバーのバーコード /2 次元シンボルフォントに、バーコード /2 次元シンボルの種類や大きさを設定します。

フォントの置き換え

プリンタードライバーのフォントの置き換えで、バーコード /2 次元シンボルフォントを True Type フォントに置き換えます。

アプリケーションから印刷

アプリケーションで、バーコード /2 次元シンボルの値を作成して印刷します。

バーコード /2 次元シンボル設定

バーコード /2 次元シンボルのタイプ、大きさや印刷方向などを設定して、バーコード /2 次元シンボルフォントの設定を行います。
バーコードフォントと 2 次元シンボルフォントを合わせて、30 件登録できます。

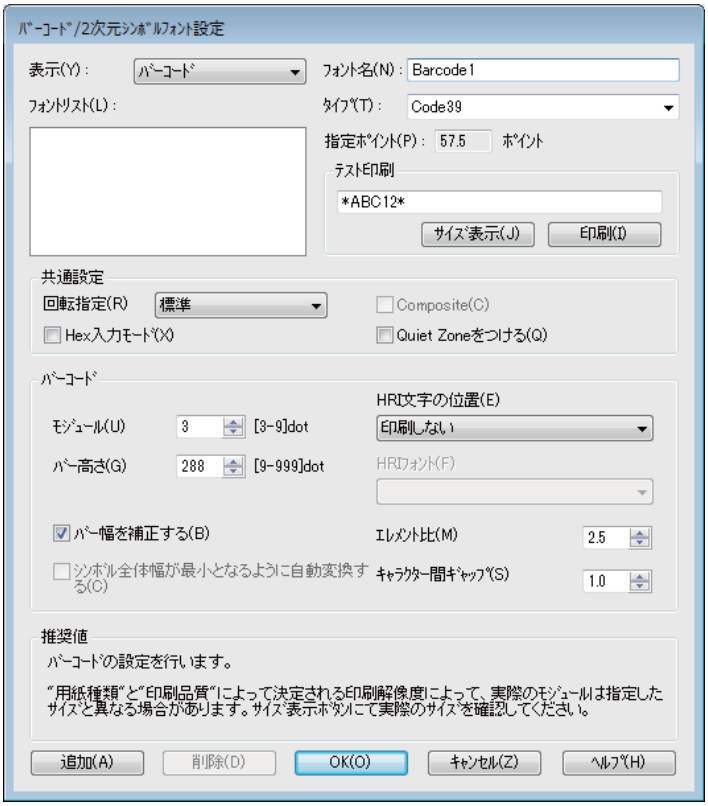
以下の手順で設定します。

1 プリンタードライバーを表示します。

2 **ドライバーユーティリティー**タブの**バーコード /2 次元シンボル設定**をクリックします。
バーコード /2 次元シンボルフォント設定画面が表示されます。

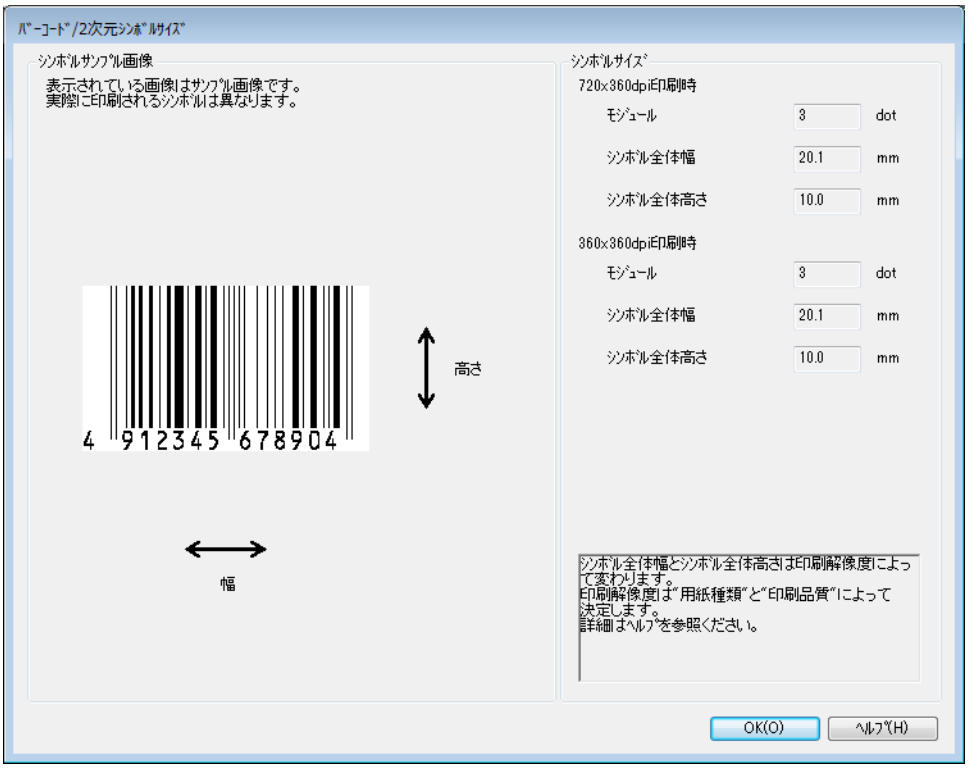
3 タイプから指定したいバーコード /2 次元シンボルを選択します。タイプにより、設定項目が変わります。

4 表示された項目を設定してください。項目上で右クリックして**ヘルプ**をクリックすると、設定項目の説明が表示されます。

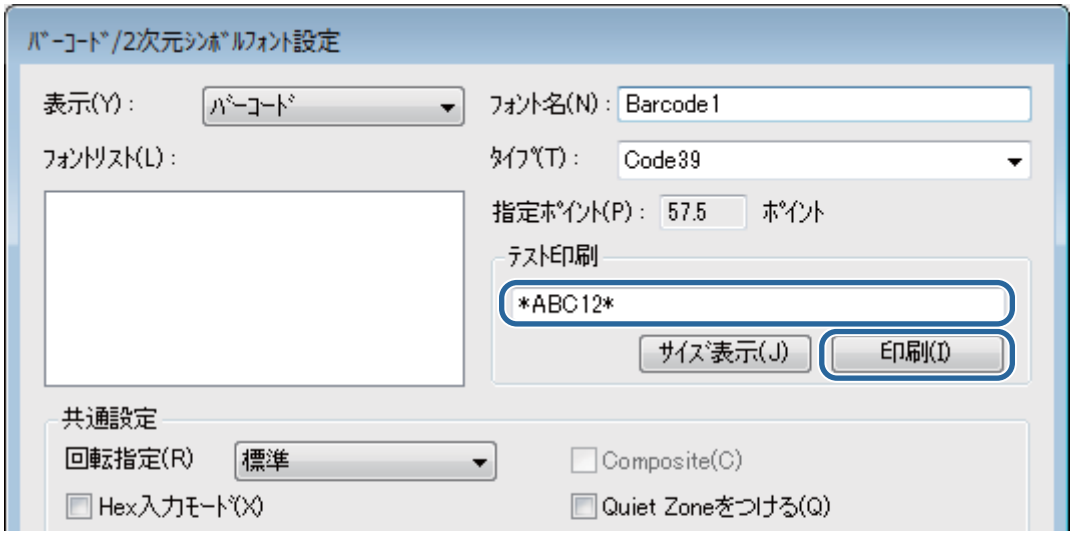


参考	指定ポイントには、バーコード /2 次元シンボルの大きさに応じたポイントが表示されます。この値は、アプリケーションから印刷するときに指定します。

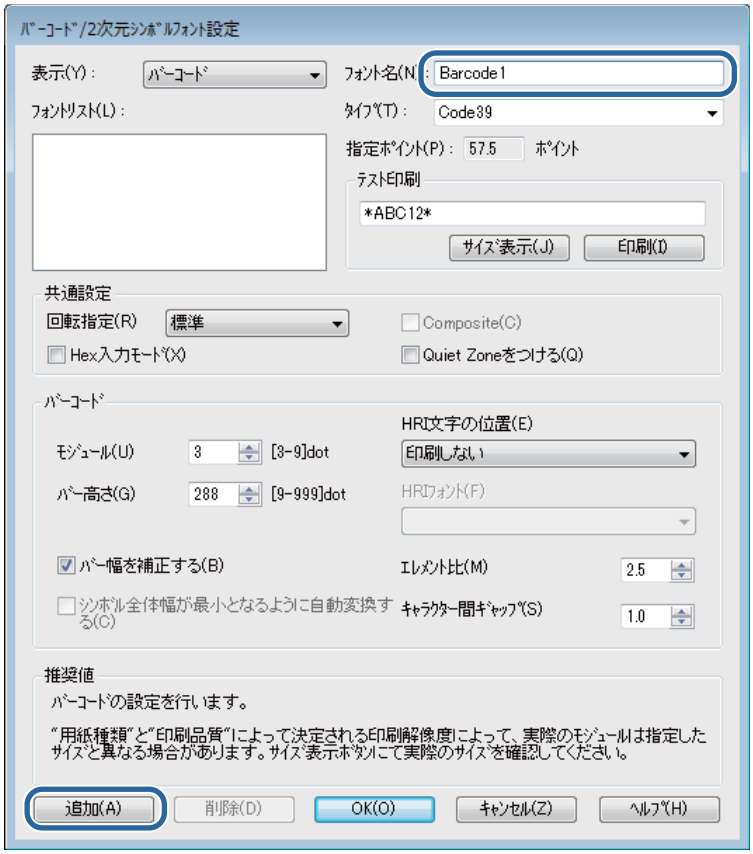
5 **サイズ表示**をクリックして、バーコード /2 次元シンボルの印刷サイズを確認します。



6 **テスト印刷**に文字列を入力して、**印刷**をクリックします。バーコード /2 次元シンボルが印刷されたら、スキャナーで読めることを確認してください。



7 **フォント名**にバーコード /2 次元シンボルフォントの名称を入力して、左下の**追加**をクリックします。

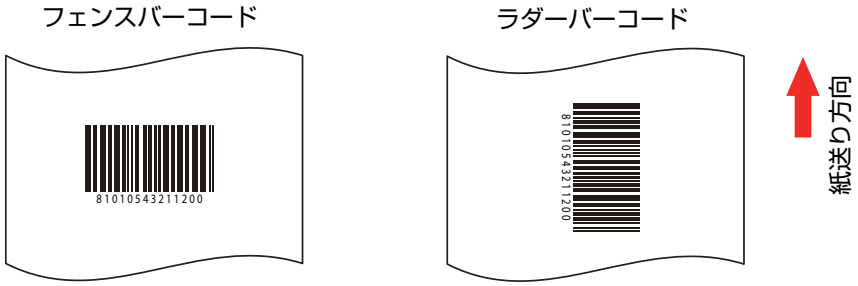


8 **フォントリスト**に、バーコード /2 次元シンボルフォントが追加されたことを確認し、**OK** をクリックします。**バーコード /2 次元シンボルフォント設定**画面が閉じます。

以上で、バーコード /2 次元シンボル設定は終了です。

バーコードの印刷方向

バーコードの印刷方向と呼称は以下のとおりです。



ラダーバーコードの場合、紙送り位置にまたがって印刷されると、バーコードリーダーで読み込めないことがあります。（30 ページ「紙送り位置の確認」）そのため、フェンスバーコードの使用または**印刷品質**を**バンディング低減**に設定することをおすすめします。

ANSI の印刷品質グレードで印刷する

用紙の種類、プリンタードライバーの設定、バーコード /2 次元シンボルの向きや大きさにより、ANSI の印刷品質グレードで印刷できます。設定項目は、以下のとおりです。

バーコード

-：保証外

基本設定		印刷方向 *1	バーコード /2 次元シンボルフォント設定			
用紙種類	印刷品質		バー幅を補正する *2	上段：最小モジュール [dot] 下段 ：最小エレメント比		
				ANSI グレード D 以上	ANSI グレード C 以上	ANSI グレード B 以上
普通紙	速い	フェンス	あり	4 dot 2.5	-	-
		ラダー		6 dot 2.5	-	-
合成紙 マット紙 光沢紙	速い	フェンス	あり	3 dot 2.7	4 dot 2.5	
		ラダー		6 dot 2.5	-	-
	きれい	フェンス		3 dot 2.7	4 dot 2.5	
		ラダー		6 dot 2.5	-	-
	バンディング低減	フェンス		3 dot 2.7	4 dot 2.5	
		ラダー		6 dot 2.5	-	-
リストバンド	速い	フェンス	あり	3 dot 2.7	4 dot 2.5	
		ラダー		6 dot 2.5 *3	- *3	-
	きれい	フェンス		3 dot 2.7	4 dot 2.5	
		ラダー		6 dot 2.5 *3	- *3	-

*1: ラダーバーコードの場合、ドット抜け、インク滴の曲がりによって、ANSI グレード F となり、バーコードリーダーで読めない場合があります。HRI 文字を印刷するなど工夫してください。
*2: インクの特性上、用紙にインクが染み込んでバーコードのバー部分が太くなることがあります。この場合、バーコードのバー部分のデータを 1 ピクセル減らし、空白部分を 1 ピクセル増やす補正（ﾊﾞｰ幅を補正する）をしてください。
*3: 特定の用紙種類、バーコードの場合、以下の推奨値になります。
リストバンド、CODE128 の場合 :5 ドットモジュール、ANSI グレード D
リストバンド、Codabar の場合 :4 ドットモジュール、最小エレメント比 2.5、ANSI グレード C

参考	**モジュール**を奇数の値に設定した場合、**用紙種類**や**印刷品質**を変更して解像度が変わると、印刷されるバーコードの大きさが異なってしまうことがあります。

スタック型 2 次元シンボルフォント

シンボル：PDF417、GS1 DataBar ｽﾀｯｸ、GS1 DataBar ｽﾀｯｸ・ｵﾑﾆﾃﾞｨﾚｸｼｮﾅﾙ、
GS1 DataBar ｴｸｽﾊﾟﾝﾃﾞｯﾄﾞ・ｽﾀｯｸ

-：保証外

基本設定		印刷状況 *1	バーコード /2 次元シンボルフォント設定			
用紙種類	印刷品質		モジュール高さ *2	最小ﾓｼﾞｭｰﾙ [dot]		
				ANSI グレード D 以上	ANSI グレード C 以上	ANSI グレード B 以上
普通紙	速い	紙送りをまたがない場合	3	6 dot	-	-
		紙送りをまたぐ場合		6 dot	-	-
合成紙 マット紙 光沢紙	速い	紙送りをまたがない場合		4 dot	-	-
		紙送りをまたぐ場合		4 dot	-	-
	きれい	紙送りをまたがない場合		4 dot	-	-
		紙送りをまたぐ場合		4 dot	-	-
	バンディング低減	-		4 dot	-	-

基本設定		印刷状況*1	バーコード /2 次元シンボルフォント設定			
用紙種類	印刷品質		モジュール高さ*2	最小ﾓｼﾞｭｰﾙ [dot]		
				ANSI グレード D 以上	ANSI グレード C 以上	ANSI グレード B 以上
リストバンド	速い	紙送りをまたがない場合	3	4 dot	-	-
		紙送りをまたぐ場合		4 dot	-	-
	きれい	紙送りをまたがない場合		4 dot	-	-
		紙送りをまたぐ場合		4 dot	-	-

*1: 2 次元シンボルが紙送りをまたぐかまたがないかは、印刷プレビュー機能の**紙送り位置表示**で確認できます。印刷プレビュー機能については、30 ページ「紙送り位置の確認」を参照してください。

*2: PDF417 を使用する場合の推奨値。

マトリックス型 2 次元シンボルフォント

シンボル：QR Code, DataMatrix

-：保証外

基本設定		印刷状況 *1	バーコード /2 次元シンボルフォント設定		
			最小ｾﾙｻｲｽﾞ [360 dpi 単位]		
用紙種類	印刷品質		ANSI グレード D 以上	ANSI グレード C 以上	ANSI グレード B 以上
普通紙	速い	紙送りをまたがない場合	6 dot	-	-
		紙送りをまたぐ場合	8 dot	-	-
合成紙 マット紙 光沢紙	速い	紙送りをまたがない場合	5 dot	6 dot *2	
		紙送りをまたぐ場合	6 dot	7 dot	-
	きれい	紙送りをまたがない場合	5 dot	6 dot *2	
		紙送りをまたぐ場合	6 dot	7 dot	-
	バンディング低減	-	6 dot	7 dot	-
リストバンド	速い	紙送りをまたがない場合	5 dot	6 dot *2	
		紙送りをまたぐ場合	6 dot	7 dot	-
	きれい	紙送りをまたがない場合	5 dot	6 dot *2	
		紙送りをまたぐ場合	6 dot	7 dot	-

*1: 2 次元シンボルが紙送りをまたぐかまたがないかは、印刷プレビュー機能の**紙送り位置表示**で確認できます。印刷プレビュー機能については、30 ページ「紙送り位置の確認」を参照してください。

*2: QR Code のみ。

フォントの置き換え

Windows の .NET アプリケーションは、プリンタードライバーのバーコードフォント /2 次元シンボルフォントを指定することができません。そのため、前の手順で設定したバーコードフォント /2 次元シンボルフォントを、Windows の True Type フォントに置き換えます。

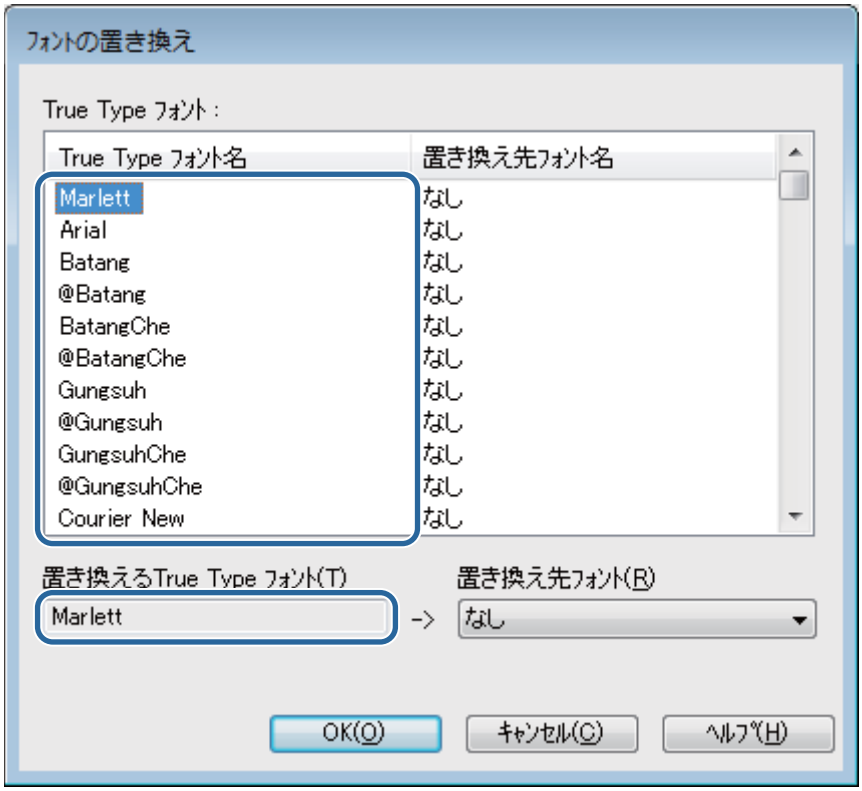
重要	バーコードフォントに置き換える True Type フォントは、印刷データで使用していないフォントを選択してください。

以下の手順でフォントの置き換えをします。

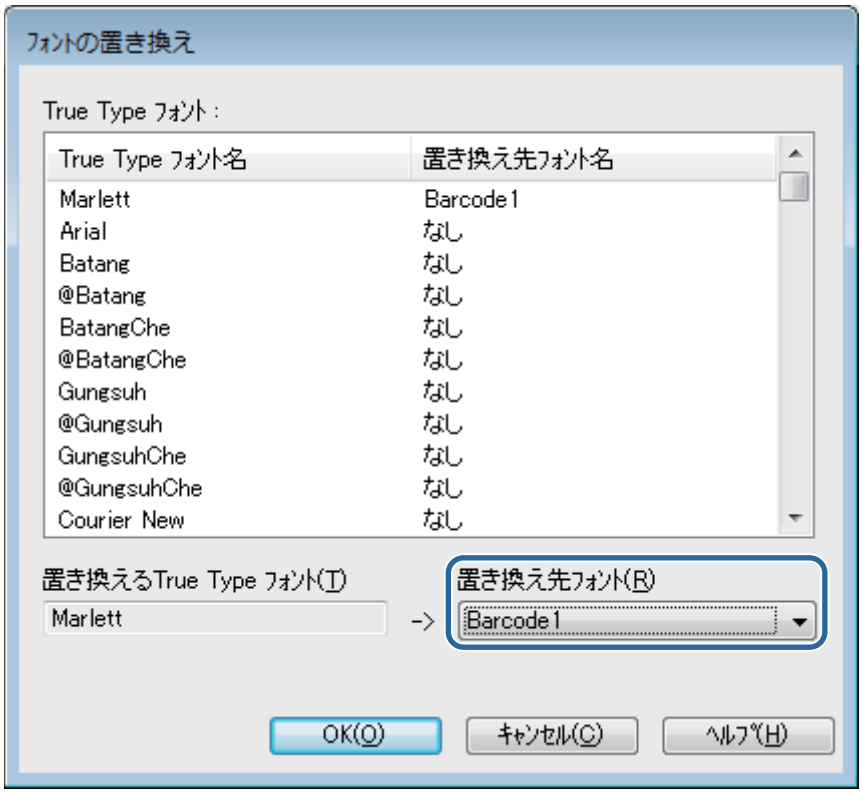
1 プリンタードライバーを表示します。

2 **ドライバーユーティリティー**タブを選択し、**フォントの置き換え**をクリックします。
フォントの置き換え画面が表示されます。

3 **True Type フォント名**リストから、置き換える True Type フォントをクリックします。
置き換える True Type フォントに、選択したフォントが表示されます。



4 **置き換え先フォント**から、先に設定したバーコード /2 次元シンボルフォントを選択します。



5 **OK** をクリックして、**フォントの置き換え**画面を閉じます。

以上で、フォントの置き換えは終了です。

アプリケーションから印刷

ここでは、バーコード /2 次元シンボルの文字列の作成と、True Type フォントを指定して印刷する方法を説明します。

バーコード /2 次元シンボルの文字列の作成

バーコード /2 次元シンボルの文字列は、以下を参照して作成してください。

UPC-A

- 11 ～ 12 桁の文字列を指定します。
- 1 桁目はナンバーシステムキャラクターですが、バーコードフォントではチェックしません。
- 11 桁の場合、チェックディジットを自動的に付加します。
- 12 桁の場合、12 桁目をチェックディジットとして扱いますが、バーコードフォントでは検算しません。
  Composite をチェックした場合、12 桁目を無視してチェックディジットを自動的に付加します。

UPC-E

- 6 ～ 8、11 ～ 12 桁の文字列を指定します。
- 6 桁の場合、チェックディジットを自動的に付加します。
- 7 桁の場合、2 ～ 7 桁がデータキャラクターとなり、チェックディジットを自動的に付加します。
- 8 桁の場合、2 ～ 7 桁がデータキャラクターとなり、8 桁目のデータをチェックディジットとして扱いますが、バーコードフォントでは検算しません。
  Composite をチェックした場合、8 桁目を無視してチェックディジットを自動的に付加します。
- 11 桁の場合、チェックディジットを自動的に付加します。
- 12 桁の場合、12 桁目をチェックディジットとして扱いますが、バーコードフォントでは検算しません。
  Composite をチェックした場合、12 桁目を無視してチェックディジットを自動的に付加します。
- 7 桁以上の場合、1 桁目をナンバーシステムキャラクターとして処理するため、0 を指定します。

JAN13(EAN)

- 12 ～ 13 桁の文字列を指定します。
- 12 桁の場合、チェックディジットを自動的に付加します。
- 13 桁の場合、13 桁目をチェックディジットとして扱いますが、バーコードフォントでは検算しません。
  Composite をチェックした場合、13 桁目を無視してチェックディジットを自動的に付加します。

JAN8(EAN)

- 7 ～ 8 桁の文字列を指定します。
- 7 桁の場合、チェックディジットを自動的に付加します。
- 8 桁の場合、8 桁目をチェックディジットとして扱いますが、バーコードフォントでは検算しません。
  Composite をチェックした場合、8桁目を無視してチェックディジットを自動的に付加します。

CODE39

- 最大 256 桁の文字列を指定します。
- スタート･ストップコード ('*') を両方または片方指定しなかった場合、自動的に付加します。

ITF

- 最大 256 桁の文字列を指定します。
- 奇数桁のデータを指定した場合、自動的に先頭に 0 を付加します。

Codabar

- 最大 256 桁の文字列を指定します。
- スタートコードを指定していない場合、自動的に 'A' をスタートコードとして付加します。
- ストップコードを指定していない場合、自動的にスタートコードと同じものをストップコードとして付加します。
- スタート・ストップコードを小文字で入力した場合、自動的に大文字に変換します。

CODE93

- 1 ～ 255 桁の文字列を指定します。
- スタートコード、2 つのチェックディジット、ストップコードを自動的に付加します。
- HRI 文字の先頭には、スタートコードを示す文字 (□) を印字します。
- HRI 文字の末尾には、ストップコードを示す文字 (□) を印字します。
- 制御キャラクター(00h ～ 1Fh、7Fh) の HRI 文字は、■とアルファベット 1 文字を組み合わせて印字します。

制御キャラクター		HRI 文字	制御キャラクター		HRI 文字	制御キャラクター		HRI 文字
ASCII	16 進数		ASCII	16 進数		ASCII	16 進数	
NULL	00	■ U	VT	0B	■ K	SYN	16	■ V
SOH	01	■ A	FF	0C	■ L	ETB	17	■ W
STX	02	■ B	CR	0D	■ M	CAN	18	■ X
ETX	03	■ C	SO	0E	■ N	EM	19	■ Y
EOT	04	■ D	SI	0F	■ O	SUB	1A	■ Z
ENQ	05	■ E	DLE	10	■ P	ESC	1B	■ A
ACK	06	■ F	DC1	11	■ Q	FS	1C	■ B
BEL	07	■ G	DC2	12	■ R	GS	1D	■ C
BS	08	■ H	DC3	13	■ S	RS	1E	■ D
HT	09	■ I	DC4	14	■ T	US	1F	■ E
LF	0A	■ J	NAK	15	■ U	DEL	7F	■ F

CODE128

- 2 ～ 255 桁の文字列を指定します。
- 先頭の 2 桁はスタートコードで、コード選択キャラクター（CODE A、CODE B、CODE C）のいずれかを指定します。
- 特殊キャラクターは、'{' と直後の 1 文字を組み合わせて表現します。
- [シンボル全体幅が最小となるように自動変換する] にチェックを付けると、CODE128 シンボルの全体幅が最小となるよう、自動的に変換します。この機能を使うと、コードセットを指定する必要はなく、シンボルにしたいデータを入力するだけでバーコードを印刷します。チェックを付けない場合は、コードセットを手動で指定します。
  コードセット C を指定する場合は、生成する 2 桁の数字を ASCII 文字の 10 進数と見なし、該当する ASCII 文字を指定します。
  例）「37」:「%」と指定します。
  「65」:「A」と指定します。
  「979899」:「abc」と指定します。
- データが '{' で、直後のデータが以下に該当しない場合、エラーになります。

制御キャラクター	ASCII	制御キャラクター	ASCII	制御キャラクター	ASCII
SHIFT	{S	CODE C	{C	FNC3	{3
CODE A	{A	FNC1	{1	FNC4	{4
CODE B	{B	FNC2	{2	'{'	{{

- 特殊キャラクターの HRI 文字は、以下ように表現されます。

制御キャラクター	HRI 文字
SHIFT	印字しない
CODE A/B/C	印字しない
FNC1 ～ 4	スペースを印字
制御キャラクター (00h～1Fh, 7Fh)	スペースを印字

GS1-128

- 2 ～ 255 桁の文字列を指定します。
- アプリケーション識別子の区切りを () で区別します。(HRI 文字として印字されますが、エンコードはされません。)
- スタートコード（CODE A、CODE B、CODE C)、ストップコードを自動的に付加します。
- スタートコードの次のシンボルキャラクター FNC1 を自動的に付加します。
- '*' を指定すると、チェックディジットを自動計算して '*' に置き換えます。
- アプリケーション識別子は、連続した 2 桁の数値を指定します。正しく指定していない場合、エラーになります。
- アプリケーション識別子が (01) の場合、データの 14 桁目はチェックディジットになりますが、チェックディジットを指定した場合、バーコードフォントでは検算しません。14 桁目が '*' の場合、チェックディジットを自動計算して '*' に置き換えます。
- 特殊キャラクターは '{' と直後の 1 文字を組み合わせて表現します。
- データが '{' で、直後のデータが以下に該当しない場合、エラーになります。

制御キャラクター	ASCII	HRI 文字
制御文字（00h ～ 1Fh および 7Fh）		スペースを印字
FNC1	{1	スペースを印字
FNC3	{3	スペースを印字
'{'	{{	{ を印字
'('	{(	(を印字
')'	{)	) を印字
'*'	{*	* を印字
アプリケーション識別子の左カッコ	(	(を印字
アプリケーション識別子の右カッコ	)	) を印字
チェックディジット位置	*	チェックディジットを印字

GS1-128M

- 38 ～ 66 桁の文字列を指定します。
- アプリケーション識別子の区切りを () で区別します。(HRI 文字として印字されますが、エンコードはされません。)
- スタートコード（CODE A、CODE B、CODE C)、ストップコードを自動的に付加します。
- スタートコードの次のシンボルキャラクター FNC1 を自動的に付加します。
- アプリケーション識別子 (30) に続くデータの最後に FNC1 が存在しない場合、FNC1 が自動的に付加されます。

- アプリケーション識別子(10)または(21)に続くデータの最後にFNC1は不要なため、FNC1が存在した場合はエラーになります。
- アプリケーション識別子が (01) の場合、データ部の 14 桁目はチェックディジットになりますが、チェックディジットを指定した場合、バーコードフォントでは検算しません。14 桁目が '*' の場合、チェックディジットを自動計算し、'*' に置き換えられます。
- データが {1 で直後のデータが 1 でない場合、エラーになります。
- 特殊キャラクターは以下の形式で指定します。

制御キャラクター	ASCII	HRI 文字
FNC1	{1	スペースを印字
アプリケーション識別子の左カッコ	(	(を印字
アプリケーション識別子の右カッコ	)	) を印字
チェックディジット位置	*	チェックディジットを印字

- 以下のフォーマットになっていない場合はエラーになります。

アプリケーション識別子	フォーマット
01	数字 14 桁
10	英数字 1 ～ 20 桁
17	数字 6 桁 (YYMMDD)
21	英数字 1 ～ 20 桁
30	数字 1 ～ 8 桁

GS1 DataBar オムニディレクショナル / GS1 DataBar トランケート / GS1 DataBar リミテッド

- 先頭のアプリケーション識別子 01 は文字列に含めません。
- HRI 文字印刷時に、先頭のアプリケーション識別子 01 は、梱包識別コードの前に "(01)" と印字されます。
- チェックディジットをバーコードデータに付加しないでください。
- HRI 文字印刷時に、チェックディジットは商品コードの後に印字されます。
- GS1 DataBar リミテッドの場合、先頭 1 桁は '0' か '1' を指定します。

GS1 DataBar エクスバンデッド M

- 38 ～ 66 桁（'*' を含まない数）の文字列を指定します。
- アプリケーション識別子の区切りを () で区別します。(HRI 文字として印字されますが、エンコードはされません。)
- アプリケーション識別子(10)あるいは(21)の前にFNC1が存在しない場合、FNC1を自動的に付加します。
- アプリケーション識別子(30)に続くデータの最後にFNC1が存在しない場合、FNC1を自動的に付加します。
- アプリケーション識別子(10)または(21)に続くデータの最後にFNC1は不要なため、FNC1が存在した場合、エラーになります。
- アプリケーション識別子が (01) の場合、データ部の 14 桁目はチェックディジットになりますが、チェックディジットが正しくない場合はエラーになります。
  (GS1-128 とは異なり、'*' によるチェックディジットの自動計算と付加はされません。)
- '*' は読み飛ばします。
- 文字列が { で直後のデータが 1 でない場合、エラーになります。
- 特殊キャラクターは以下の形式で指定します。

制御キャラクター	ASCII	HRI 文字
FNC1	{1	印字しない
'('	{(	(を印字
')'	{)	) を印字
アプリケーション識別子の左カッコ	(	(を印字
アプリケーション識別子の右カッコ	)	) を印字
'*'	{*	* を印字
読み飛ばし文字	*	印字しない

GS1 DataBar エクスバンデッド

- 2 ～ 255 桁の文字列を指定します。
- アプリケーション識別子の区切りを () で区別します。(HRI 文字として印字されますが、エンコードはされません。)
- 文字列に必ず、すべてのアプリケーション識別子を含めてください。
- 指定されたデータから、アプリケーション識別子、左カッコ、右カッコ、'*' を削除した最初データが 01 の場合、01 の次から数えて 14 桁目をチェックディジットとしてチェックします。正しくない場合、エラーになります。
- 01 の次からのデータが 14 桁未満の場合、チェックディジットをチェックしません。(GS1-128 とは異なり、文字 '*' によるチェックディジットの自動計算と付加はしません。'*' を指定した場合、'*' は無視され、以降のデータは 1 桁ずつシフトされます。)
- 特殊キャラクターは以下の形式で指定します。

制御キャラクター	ASCII	HRI 文字
FNC1	{1	印字しない
アプリケーション識別子の左カッコ	(	(を印字
アプリケーション識別子の右カッコ	)	) を印字
'*'	{*	エラー
読み飛ばし文字	*	印字しない

PDF417

- 桁数と段数が 0 の場合、自動計算されます。
- 0 以外を指定する場合、桁数と段数の積が 928 以下になるように指定します。

QRCode

- 指定されたバージョンよってサイズが決定されます。指定されたバージョンに収まらない場合、収まるバージョンに自動的に変更します。

MaxiCode

- モード 2 か 3 の場合のヘッダー、2 次メッセージは省略可能です。
- 特殊キャラクターは以下の形式で指定します。

制御キャラクター	16 進数表記
SHIFT	0x7B,0x53
CODE B	0x7B,0x42
CODE C	0x7B,0x43
FNC1	0x7B,0x31
FNC2	0x7B,0x32

制御キャラクター	16 進数表記
FNC3	0x7B,0x33
FNC4	0x7B,0x34

GS1 DataBar スタック / GS1 DataBar スタック・オムニディレクショナル

- 文字列は 13 桁まで指定できます。
- 文字列の先頭にアプリケーション識別子 01 を含めないでください。
- 文字列にチェックディジットを付加しないでください。

GS1 DataBar エクスバンデッド・スタック

- GS1 DataBar エクスバンデッドを多段シンボルにしたものです。データの指定方法は GS1 DataBar エクスバンデッドと同じです。

AztecCode

- フルレンジモードとコンパクトモードをサポートしています。

DataMatrix

- ECC200 バージョンの正方形および長方形をサポートしています。

True Type フォントを指定して印刷する

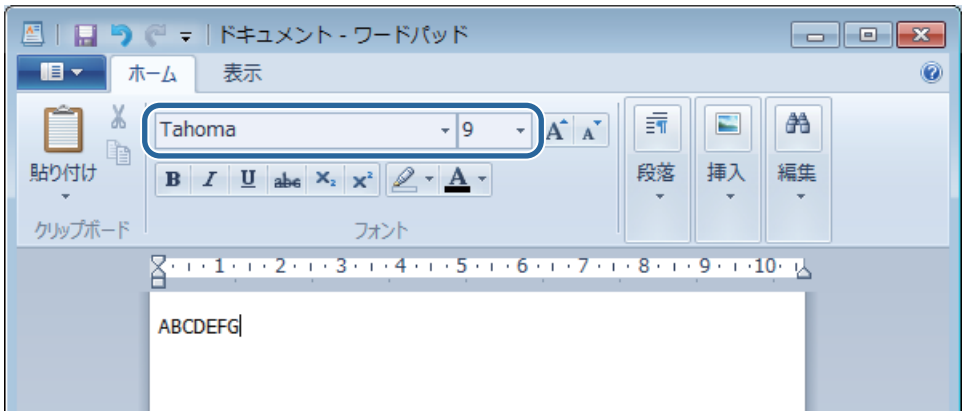
バーコード /2 次元シンボルの文字列に、以下を設定して印刷します。

True Type フォント

フォントの置き換えで選択した True Type フォントを指定します。

ポイント

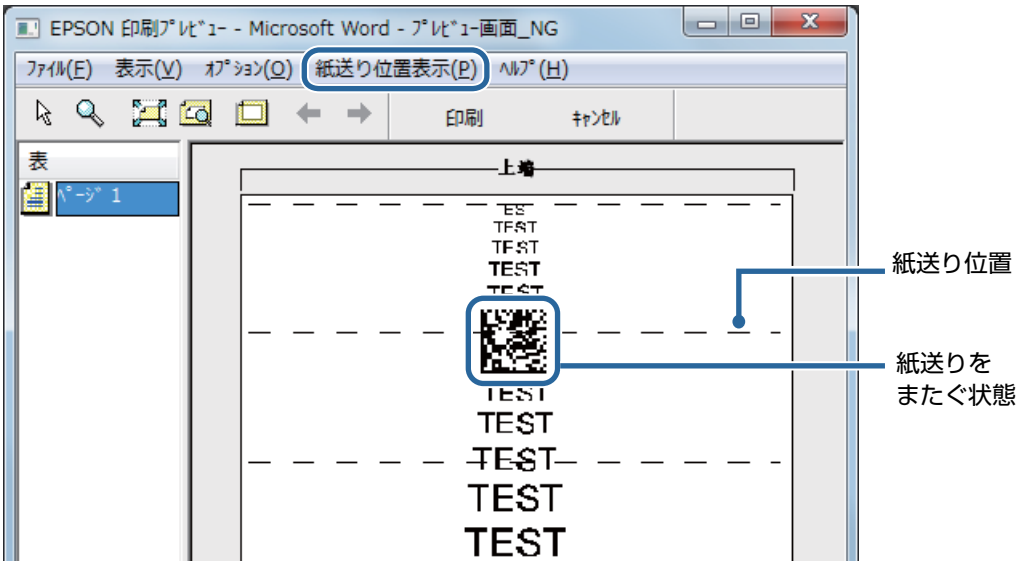
ポイントはバーコード /2 次元シンボルフォントごとに設定されています。バーコード /2 次元シンボルフォントの指定ポイントを確認してください。
(☞13 ページ「バーコード /2 次元シンボル設定」)



紙送り位置の確認

印刷品質を**速い**または**きれい**に設定している場合、バーコード /2 次元シンボルが紙送り位置にまたがって印刷されると、バーコード /2 次元シンボルが読み込めないことがあります。紙送り位置をまたがないように印刷データを調整してください。**印刷品質**を**バンディング低減**に設定している場合は、紙送り位置によってバーコード /2 次元シンボルの読み取り精度に影響がないため、紙送り位置の確認や調整は不要です。

基本設定タブの**印刷プレビューを表示する**をチェックすると、印刷前に印刷結果のイメージを確認できます。**印刷品質**を**バンディング低減**に設定している場合は、紙送り位置は表示されません。

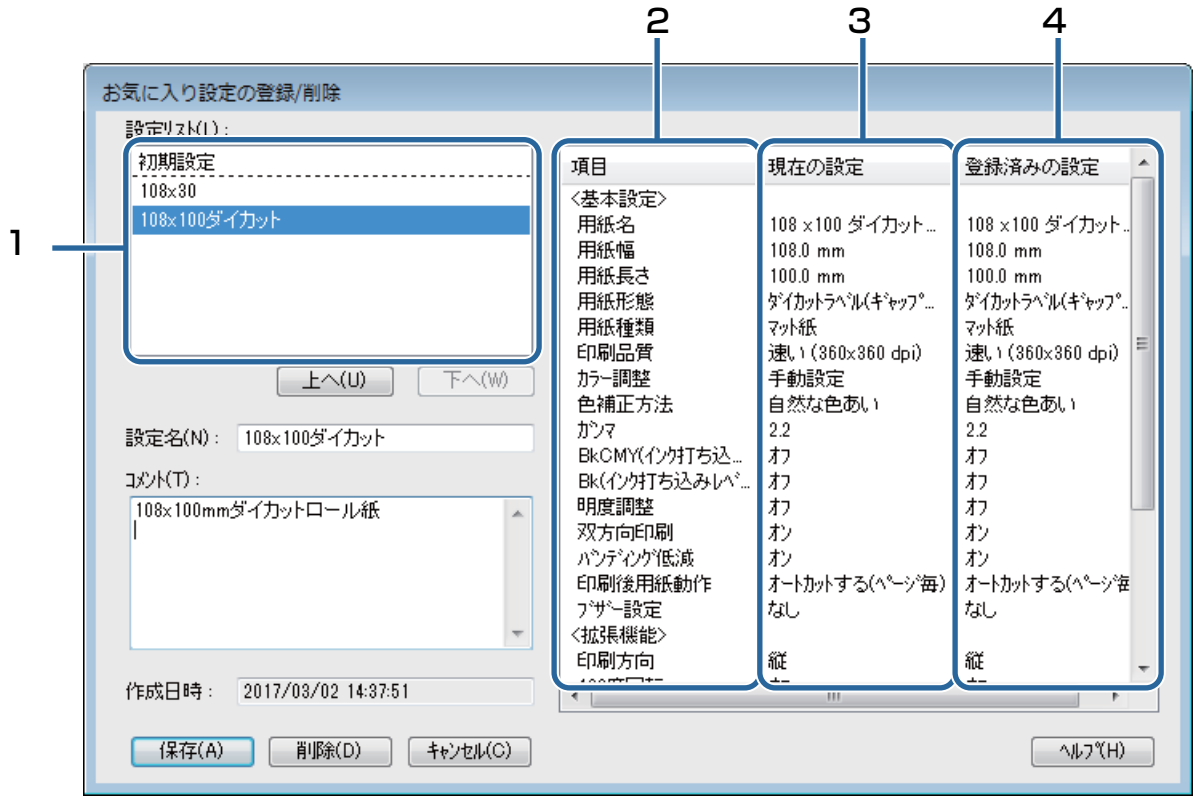


お気に入り

お気に入りとは、プリンタードライバーの基本設定と拡張設定をまとめて登録する機能です。

お気に入りの画面構成

項目上で右クリックして**ヘルプ**をクリックすると、設定項目の説明が表示されます。



1	**設定リスト**

お気に入りのリストです。
初期設定は、プリンタードライバーのインストール時の設定です。
リストの一番上に表示されている設定が、プリンタードライバーを起動したときのデフォルト設定になります。お気に入りを選択して、**上へ** / **下へ**をクリックすると、リストの順番を入れ替えることができます。

2	**項目**

お気に入りの設定項目です。

3	**現在の設定**

現在の設定を登録をクリックしたときの設定値です。

4	**登録済みの設定**

設定リストから選択したお気に入りの設定値です。

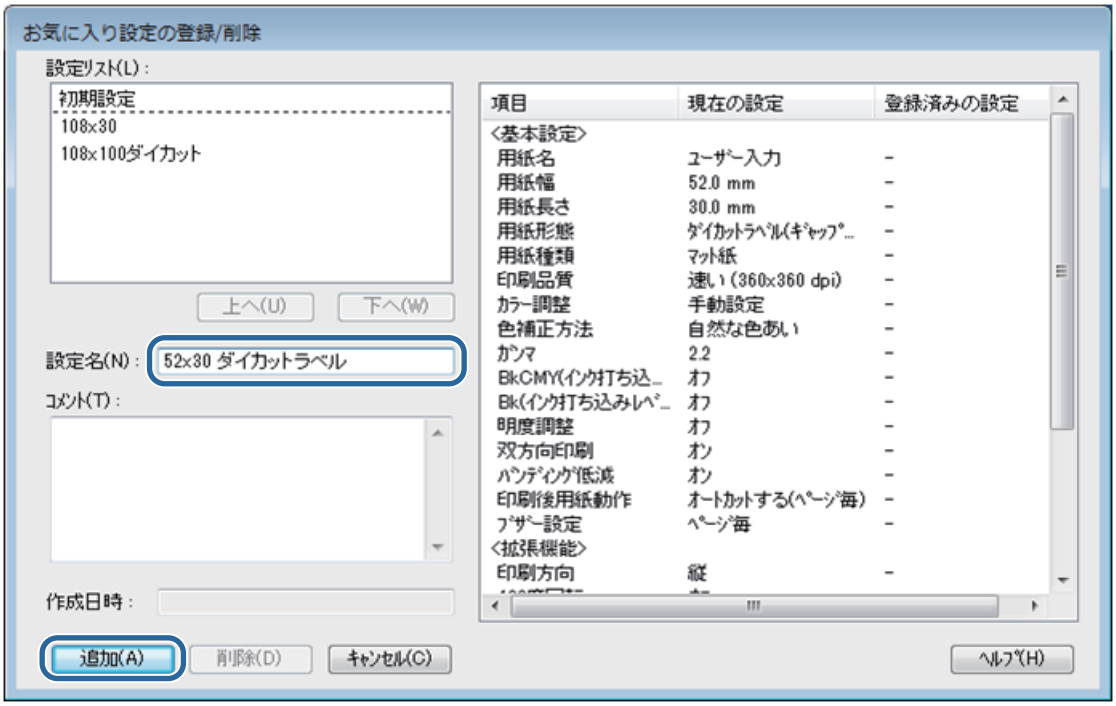
お気に入りの登録

以下の手順でお気に入りの登録をします。

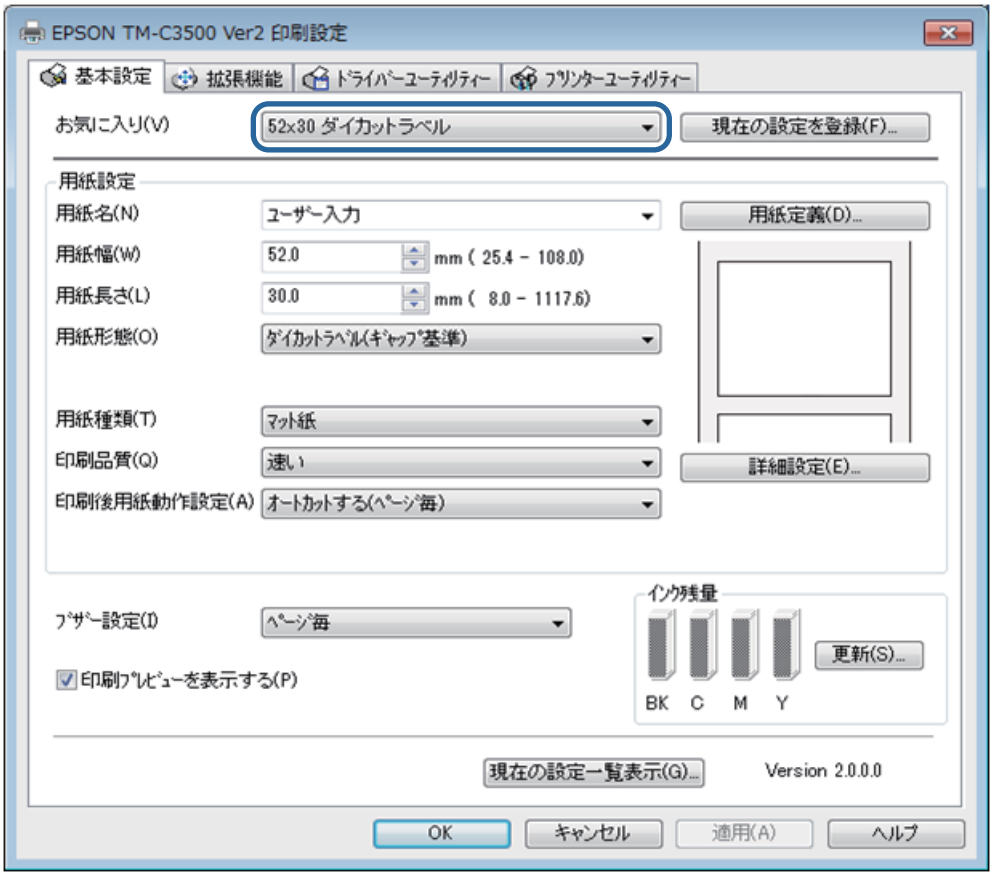
1 印刷する用紙に合わせてプリンタードライバーを設定します。

2 **基本設定**タブまたは**拡張機能**タブの、**現在の設定を登録**をクリックします。
お気に入り設定の登録 / 削除画面が表示されます。
基本設定タブと**拡張機能**タブの内容が、**現在の設定**に表示されます。

3 設定名を入力し、**追加**をクリックします。**お気に入り設定の登録 / 削除**画面が閉じます。



4 **基本設定**タブまたは**拡張機能**タブのお**気に入り**に、追加した設定名が登録されます。



以上で、お気に入りの登録は終了です。

設定ファイルの書き出し / 取り込み

プリンタードライバーの設定を、BSF ファイルに書き出します。BSF ファイルは、バックアップファイルやマスターファイルとして活用できます。

参考	BSF ファイルを使って他のコンピューターのプリンタードライバーに設定する場合、プリンタードライバーのバージョンが同一でないとファイルを取り込みできません。

BSF ファイルに書き出される設定

- 用紙定義
- お気に入り
- バーコード /2 次元シンボルフォント
- フォントの置き換え
- ドライバー動作設定
- EPSON ログファイルの設定
- 致命的なエラーの通知設定 / モニタリング機能の設定

BSF ファイルに書き出されない設定

- PrinterSetting で本製品に設定した項目
- プリンタードライバーのポート設定 (プリンターの IP アドレス、コンピューターのポート)

設定の書き出し

以下の手順で設定の書き出しをします。

1 プリンタードライバーを表示します。

2 お気に入りを登録します。(☞32 ページ「お気に入りの登録」)
お気に入りを登録しないと、プリンタードライバーをインストールした時の初期設定だけが登録されます。

3 **ドライバーユーティリティー**タブの**設定の書き出し / 取り込み**をクリックします。
設定の書き出し / 取り込み画面が表示されます。

4 **設定の書き出し**をクリックします。
名前を付けて保存画面が表示されます。

5 名前を付けて BSF ファイルを保存します。
ファイルが保存されると、**処理の完了**画面が表示されます。

6 **OK** をクリックします。

以上で、設定の書き出しは終了です。

設定の取り込み

参考	BSF ファイルから設定を取り込むと、プリンタードライバーの設定は上書き保存されます。

以下の手順で設定の取り込みをします。

1 プリンタードライバーを表示します。

2 **ドライバーユーティリティー**タブの**設定の書き出し / 取り込み**をクリックします。
設定の書き出し / 取り込み画面が表示されます。

3 **設定の取り込み**をクリックします。
確認画面が表示されます。

4 OK をクリックします。
開く画面が表示されます。

5 取り込むファイルを選択します。
処理の完了画面が表示されます。

6 OK をクリックします。

以上で、設定の取り込みは終了です。

アプリケーション開発情報

本章では、本製品を使用したアプリケーションの開発に必要な情報を提供しています。

Epson Inkjet Label Printer SDK

Epson Inkjet Label Printer SDK は、TM-C3500 のアプリケーションを開発するための SDK です。

Epson Inkjet Label Printer SDK には以下のツールが含まれています。使用方法については、**Epson Inkjet Label Printer SDK ユーザーズガイド**をご覧ください。

名称	概要
EPDI (EPSON Printer Driver Interface)	EPDI（EPSON Printer Driver Interface）は、エプソンのプリンタードライバーの API を提供しています。EPDI を利用すると、お客様が開発するアプリケーションからプリンタードライバーの設定を直接制御します。
EpsonNet SDK	EpsonNet SDK は、エプソン製インクジェットラベルプリンターのステータスを取得するための API を提供しています。 EpsonNet SDK を利用すると、お客様が開発するアプリケーションから、ネットワークプリンターのステータスを取得できます。
サンプルプログラム	ラベルを印刷するサンプルプログラムです。EPDIやEpsonNet SDKを利用するサンプルプログラムも含まれています。アプリケーションの実行ファイルとプログラムのソースファイルを提供しています。

用紙の設計

本章では、本製品で使用できる用紙を設計・手配するために必要なことを説明します。

使用できる用紙の種類

本製品で使用できる用紙は以下のとおりです。
詳細な仕様については、43 ページ「用紙仕様」を確認してください。

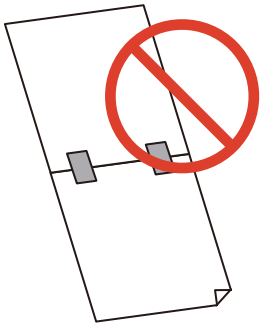
	粘着加工	タイプ	種類
ロール紙	あり	全面ラベル ダイカットラベル（ブラックマーク付） ダイカットラベル（ギャップ付）	普通紙 マット紙 合成紙 光沢紙
	なし	連続紙 連続紙（ブラックマーク付）	普通紙 マット紙 リストバンド
ファンフォールド紙	あり	ダイカットラベル（ブラックマーク付）	普通紙 マット紙
	なし	連続紙（ブラックマーク付）	

重要	ダイカットラベルを使用する場合、型抜きされたラベルの形状によっては、本製品の内部でラベルが台紙から剥がれてしまう恐れがあります。仕様以外のダイカットラベルを使用したい場合は、事前に販売店にお問い合わせください。

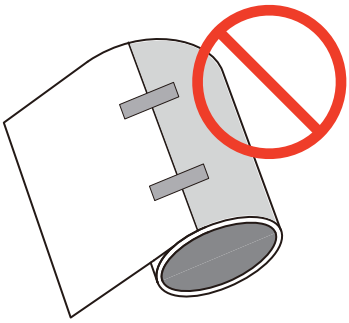
使用できない用紙

以下のような用紙はセットしないでください。紙詰まりや印刷汚れの原因になります。

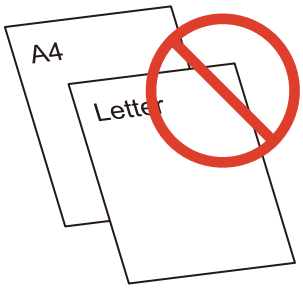
サーマル紙



テープなどで繋ぎ、
延長した用紙



テープなどで芯にとめて
いる用紙



A 判、B 判などの用紙

用紙の頭出し検出

本製品は、用紙の先頭を検出する機能を搭載しています。ここでは、検出方法と、用紙の制限について説明します。

検出方法

ブラックマーク検出

用紙背面側に検出器を配置し、用紙の光反射率から用紙の頭出しを検出します。
（ブラックマーク反射率 10%以下、白反射率 70%以上）
ブラックマークの検出を確実に行うため、用紙仕様の各ブラックマーク基準の用紙仕様に記載されている位置にブラックマークが印刷された用紙を使用してください。

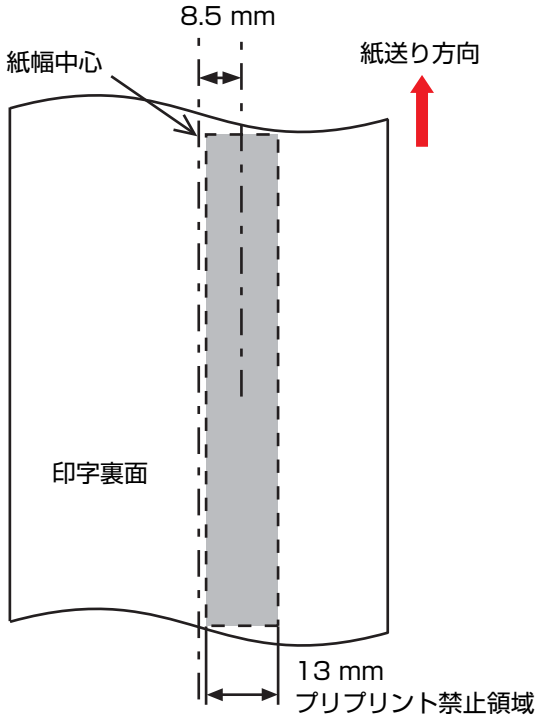
ギャップ検出

用紙経路に透過型検出器を配置し、台紙とラベルの光透過率の違いから用紙の頭出しを検出します。
（台紙の光透過率 40%以上、ラベルの光透過率 23%以下）
光透過率：光透過率 (%) ＝光透過量／照射光量 ×100

用紙の制限事項

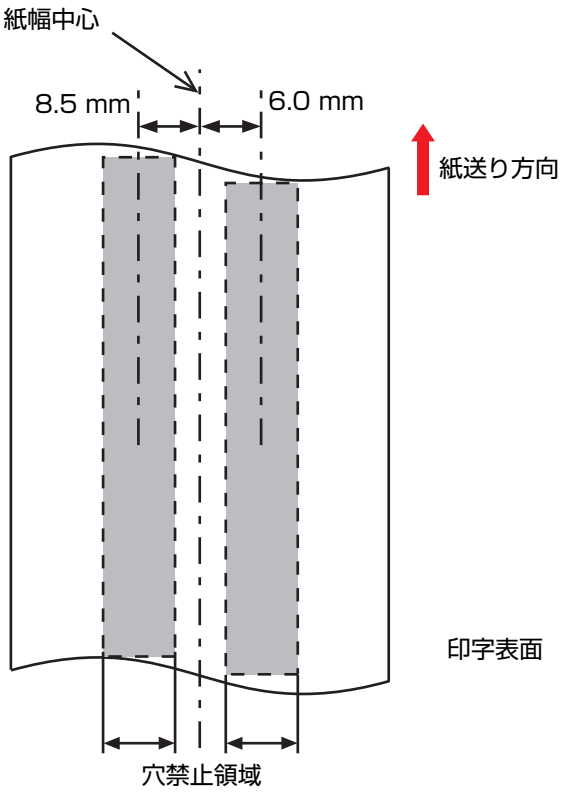
用紙のプリプリント禁止領域

用紙の裏面にプリプリントする場合、検出に影響を与えるため、以下の範囲にはプリプリントしないでください。（ブラックマークは除きます。）



用紙の穴禁止領域

リストバンドなど用紙に穴を必要とする場合、検出に影響を与えるため、以下の範囲には穴を開けないでください。



用紙仕様

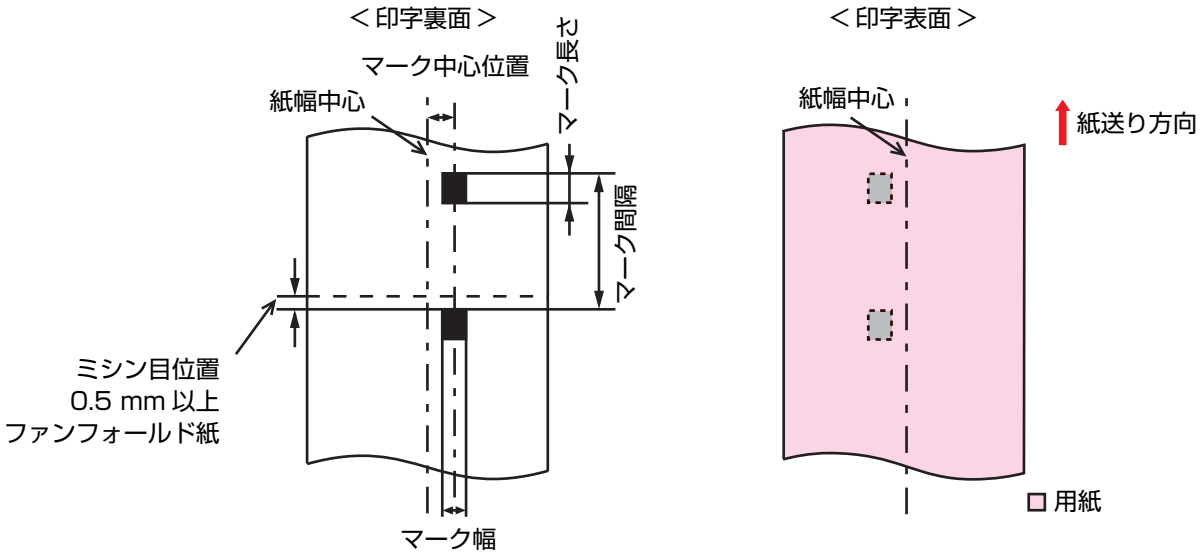
本製品で使用可能な用紙の仕様は以下のとおりです。

連続紙

用紙種類	普通紙 / マット紙
形状	ロール紙
用紙幅	30 ～ 108 mm
紙厚	0.084 ～ 0.124 mm
巻芯	外径：44.1 mm 以上
外径	最大 101.6 mm
巻き方向	印字面が外側

重要	穴、切り欠きのある用紙は使用できません。

連続紙（ブラックマーク基準）



用紙種類	普通紙 / マット紙
形状	ロール紙
用紙幅	30 ～ 108 mm
ブラックマーク幅	13 mm 以上
ラベル長さ	15 ～ 1117.6 mm
ブラックマーク長さ	4 mm 以上（空白部 4 mm 以上）
ブラックマーク中心位置	8.5 ± 1 mm
ブラックマーク間隔	8 ～ 1117.6 mm
紙厚	0.084 ～ 0.124 mm
巻芯	外径：44.1 mm 以上
外径	最大 101.6 mm
巻き方向	印字面が外側

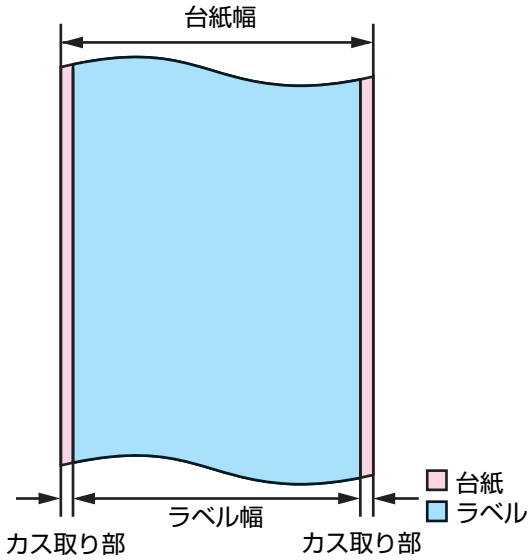
重要	穴、切り欠きのある用紙は使用できません。

用紙種類	普通紙 / マット紙
形状	ファンフォールド紙
用紙幅	50 ～ 108 mm
ブラックマーク幅	13 mm 以上
ブラックマーク長さ	4 mm 以上（空白部 4 mm 以上）
ブラックマーク中心位置	8.5 ± 1 mm
ブラックマーク間隔	8 ～ 304.8 mm
紙厚	0.124 ～ 0.128 mm
ミシン目間隔	203.2 ～ 304.8 mm
ミシン目形状	普通紙ラベル : 1 mm アンカット、5 mm カット マット紙 : 1 mm アンカット、5 mm カット
折り数	500 折り以下

重要

- 穴、切り欠きのある用紙は使用できません。
- ファンフォールド紙は、ブラックマークがミシン目から 0.5 mm 以上離れているものを使用してください。
- ファンフォールド紙のオートカット位置は、ミシン目の後ろ側から 0.5 ～ 1 mm 離れた位置に設定してください。
- 用紙両端のミシン目はアンカットのものを使用してください。
- 用紙を逆方向から挿入しても使用できるようにするには、どちらの方向から挿入しても、ブラックマークがミシン目に対して同じ位置にくるように（ブラックマークセンサーで検出できる位置に）してください。

全面ラベル

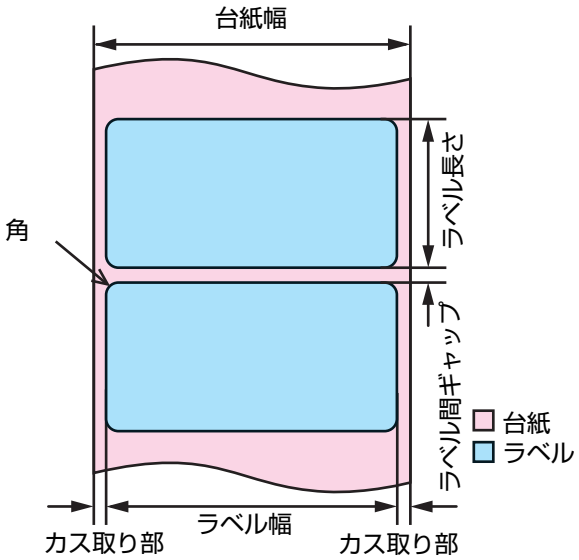


用紙種類	普通紙ラベル/マット紙ラベル/合成紙ラベル/光沢紙ラベル
形状	ロール紙
台紙幅	30 ～ 112 mm
ラベル幅	25.4 ～ 108 mm
左右カス取り部	2 ± 0.5 mm
紙厚	普通紙ラベル / マット紙ラベル / 合成紙ラベル： 0.129 ～ 0.195 mm 光沢紙ラベル： 0.184 mm
巻芯	普通紙ラベル / マット紙ラベル / 合成紙ラベル： 外径：44.1 mm 以上 光沢紙ラベル： 外径：56.8 mm 以上
外径	最大 101.6 mm
巻き方向	印字面が外側

重要

- 穴、切り欠きのある用紙は使用できません。
- ロール紙供給部への粘着材の付着を防止するため、左右端をカス取りしたラベルを使用してください。

ダイカットラベル（ギャップ基準）



用紙種類	普通紙ラベル/マット紙ラベル/合成紙ラベル/光沢紙ラベル
形状	ロール紙
台紙幅	30 ～ 112 mm
ラベル幅	25.4 ～ 108 mm
ラベル長さ	8 ～ 1117.6 mm
ラベル間ギャップ	3 ～ 6 mm
左右カス取り部	2 ± 0.5 mm
ラベル角 R	1.5 mm 以下
紙厚	普通紙ラベル / マット紙ラベル / 合成紙ラベル： 0.129 ～ 0.195 mm 光沢紙ラベル： 0.184 mm
巻芯	普通紙ラベル / 合成紙ラベル： 外径：44.1 mm 以上 マット紙ラベル / 光沢紙ラベル： 外径：56.8 mm 以上
外径	最大 101.6 mm
巻き方向	印字面が外側

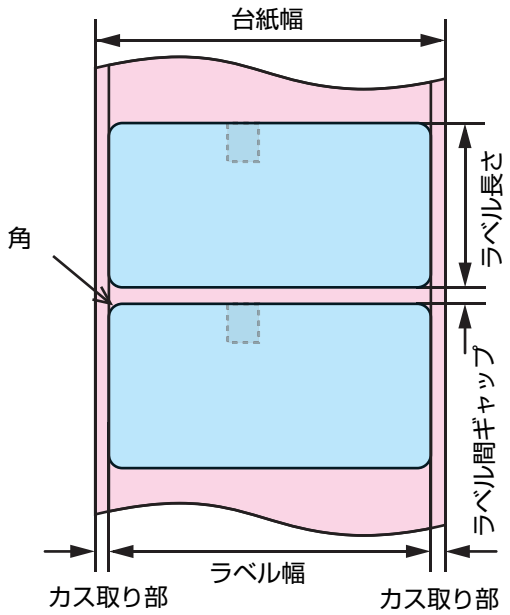
重要

- 穴、切り欠きのある用紙は使用できません。
- 台紙が合成紙やフィルムの場合、ミシン目があっても手切りしにくいため、その際にはミシン目を使用しないでください。

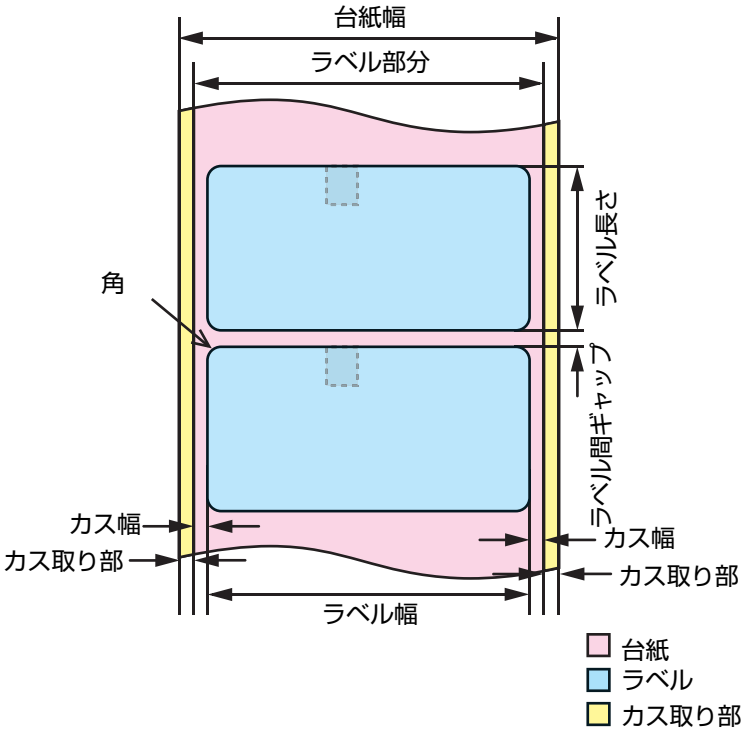
参考	ダイカットラベルを使用する場合、型抜きされたラベルの形状によっては、本製品の内部でラベルが台紙から剥がれてしまう恐れがあります。仕様以外のダイカットラベルを使用したい場合は、事前に販売店にお問い合わせください。

ダイカットラベル（ブラックマーク基準）

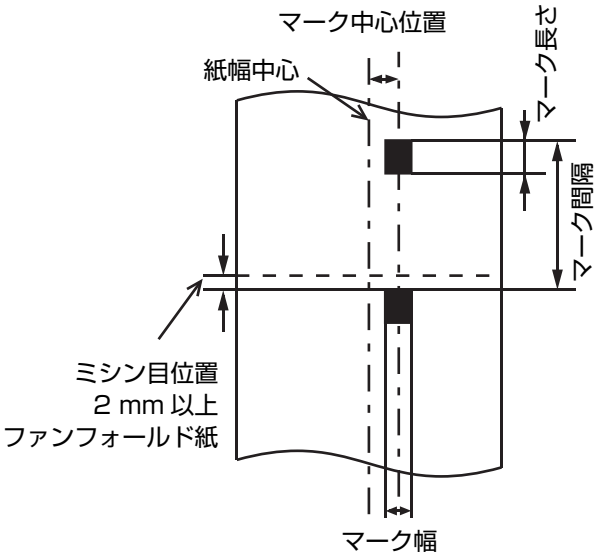
カス取りされている用紙



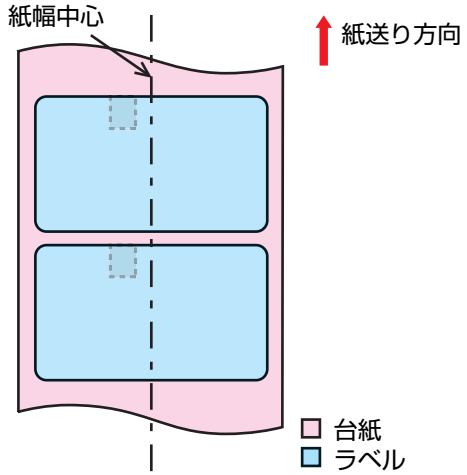
左右端のみカス取りされている用紙



＜印字裏面＞



＜印字表面＞



用紙種類	普通紙ラベル / マット紙ラベル / 光沢紙ラベル
形状	ロール紙
台紙幅	30 ～ 112 mm
ラベル幅	25.4 ～ 108 mm
ラベル長さ	8 ～ 1117.6 mm
ラベル間ギャップ	3 ～ 6 mm
左右カス取り部	2 ± 0.5 mm
カス幅	1.5 mm 以上
ラベル角 R	1.5 mm 以下
ブラックマーク幅	13 mm 以上
ブラックマーク長さ	4 mm 以上（空白部 4 mm 以上）
ブラックマーク中心位置	8.5 ± 1 mm
ブラックマーク間隔	11 ～ 1123.6 mm
紙厚	普通紙ラベル / マット紙ラベル： 0.129 ～ 0.143 mm 光沢紙ラベル： 0.184 mm
巻芯	普通紙ラベル： 外径：44.1 mm 以上 マット紙ラベル / 光沢紙ラベル： 外径：56.8 mm 以上
外径	最大 101.6 mm
巻き方向	印字面が外側

重要

- 穴、切り欠きのある用紙は使用できません。
- ダイカットラベルへのブラックマーク位置はラベル先端とブラックマーク先端を合わせてください。
- 「カス取りされている用紙」と「左右端のみカス取りされている用紙」の両方が使用できます。

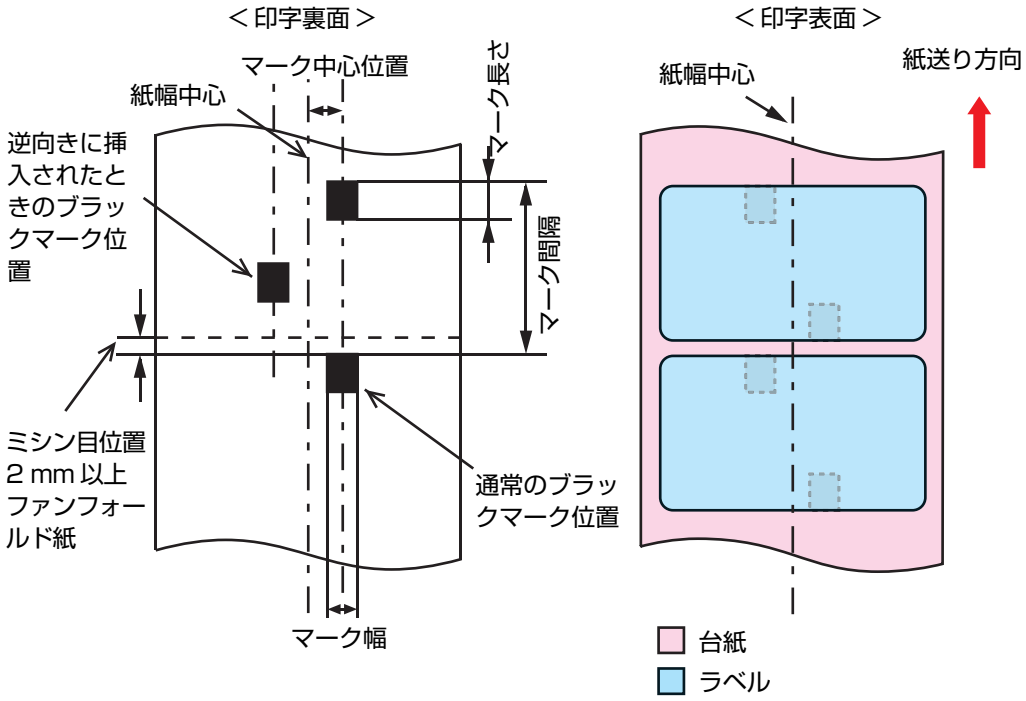
参考

ダイカットラベルを使用する場合、型抜きされたラベルの形状によっては、本製品の内部でラベルが台紙から剥がれてしまう恐れがあります。仕様以外のダイカットラベルを使用したい場合は、事前に販売店にお問い合わせください。

用紙種類	普通紙ラベル / マット紙ラベル
形状	ファンフォールド紙
台紙幅	50 ～ 112 mm
ラベル幅	46 ～ 108 mm
ラベル長さ	8 ～ 301.8 mm
ラベル間ギャップ	3 ～ 6 mm
左右カス取り部	2 ± 0.5 mm
カス幅	1.5 mm 以上
ラベル角 R	1.5 mm 以下
ブラックマーク幅	13 mm 以上
ブラックマーク長さ	4 mm 以上（空白部 4 mm 以上）
ブラックマーク中心位置	8.5 ± 1 mm
ブラックマーク間隔	11 ～ 304.8 mm
紙厚	0.161 ～ 0.164 mm
ミシン目間隔	203.2 ～ 304.8 mm
ミシン目形状	普通紙ラベル : 1 mm アンカット、5 mm カット マット紙ラベル : 1 mm アンカット、5 mm カット
折り数	500 折り以下

重要

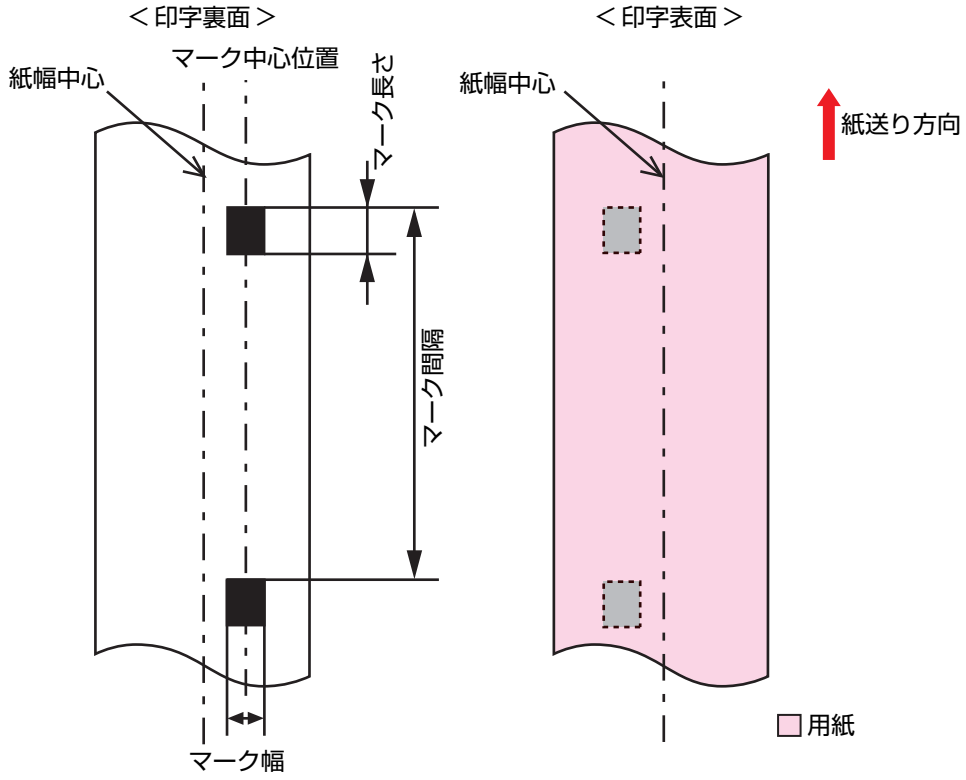
- 穴、切り欠きのある用紙は使用できません。
- ミシン目の上をオートカットすると小さな紙片が発生し、不具合が生じる場合があります。また、ミシン目の前側をオートカットすると紙送り時に不具合を生じる可能性があります。このため、ミシン目の後ろ側を 0.5 ～ 1 mm 離してオートカットしてください。
- ブラックマーク位置はミシン目より 2 mm 以上離してください。
- ダイカットラベル紙へのブラックマーク位置はラベル先端とブラックマーク先端を合わせてください。
- 用紙両端のミシン目はアンカットとしてください。
- 「カス取りされている用紙」と「左右端のみカス取りされている用紙」の両方が使用できます。
- 両側にブラックマークを設けることで、用紙がどちら側から挿入されても使用することができます。



参考

ダイカットラベルを使用する場合、型抜きされたラベルの形状によっては、本製品の内部でラベルが台紙から剥がれてしまう恐れがあります。仕様以外のダイカットラベルを使用したい場合は、事前に販売店にお問い合わせください。

リストバンド



用紙種類		リストバンド
指定専用紙		WB-S シリーズ、WB-M シリーズ、WB-L シリーズ
形状		ロール紙
紙幅		36 mm
ブラックマーク幅		13 mm 以上
ブラックマーク長さ		4 mm 以上（空白部 4 mm 以上）
ブラックマーク中心位置		8.5 ± 1 mm
ブラックマーク間隔	WB-S シリーズ	184.1 mm
	WB-M シリーズ	292.1 mm
	WB-L シリーズ	292.1 mm
紙厚		0.225 mm
巻芯		外径：56.8 mm 以上
外径		最大 101.6 mm
巻き方向		印字面が外側
穴、切り欠き		穴径：2.5 mm 以下

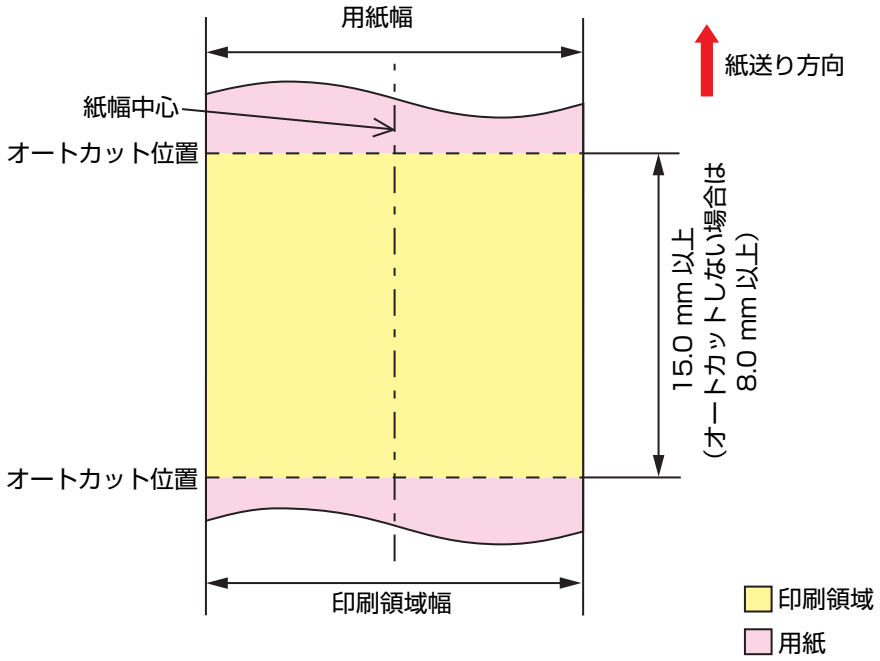
重要	バーコードを印刷する場合、クワイエットゾーンを含めて、実際の運用上バーコードが読み取れることを確認してください。

印刷位置とカット位置

連続紙・ロール紙

「フチなし」有効時

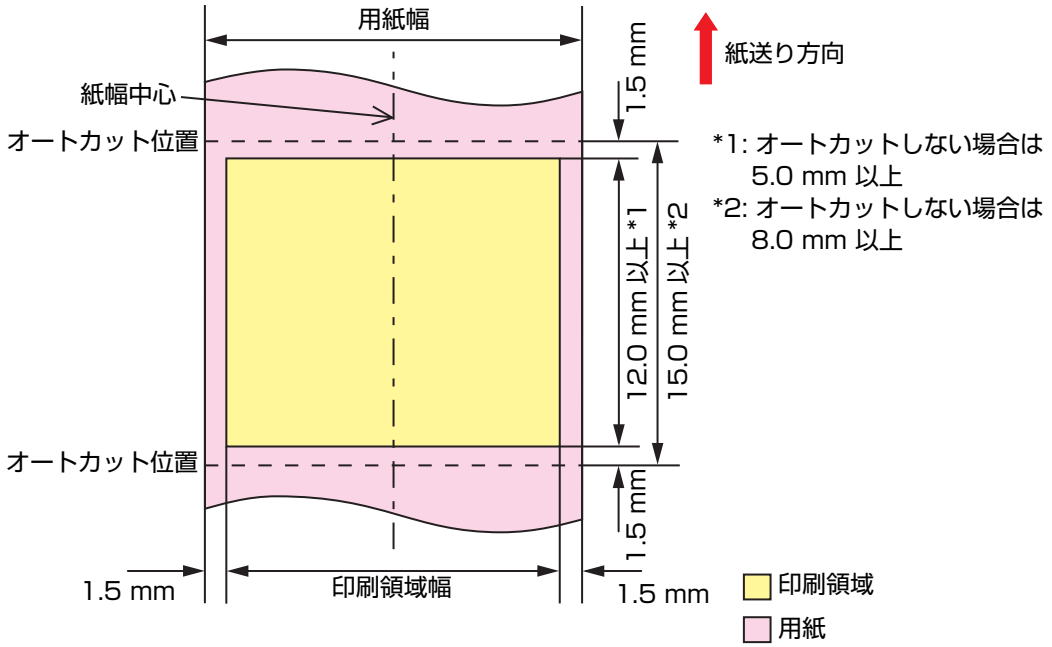
上下左右余白：0 mm（中心値）



参考	印刷領域幅の最大値は 104 mm です。

「フチなし」無効時

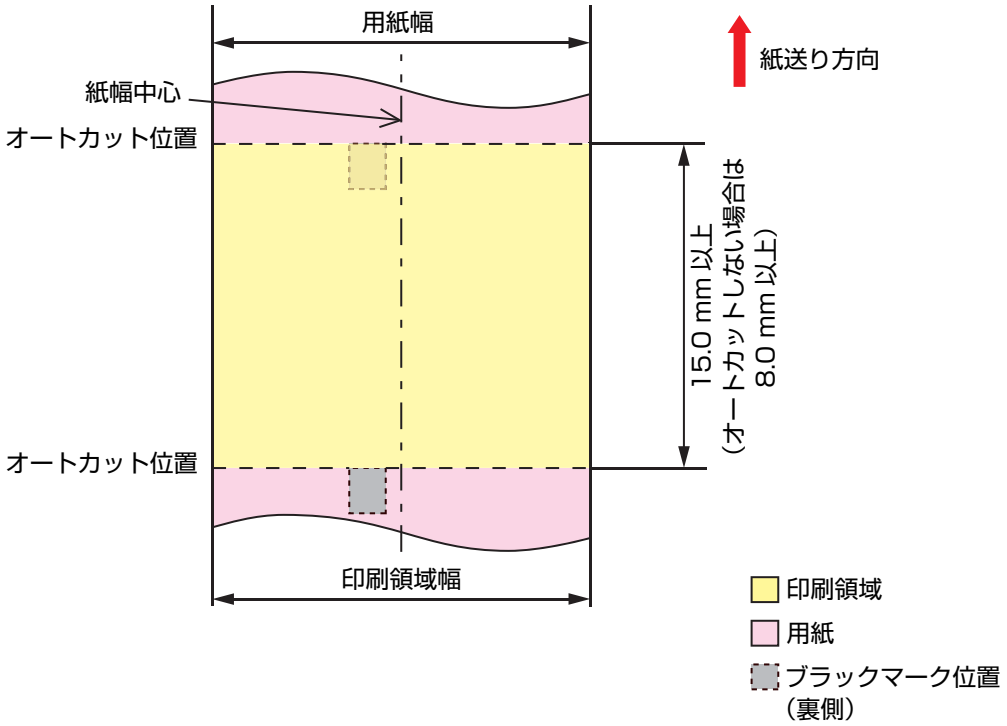
上下左右余白：1.5 mm（中心値）



連続紙（ブラックマーク基準）・ロール紙

「フチなし」有効時

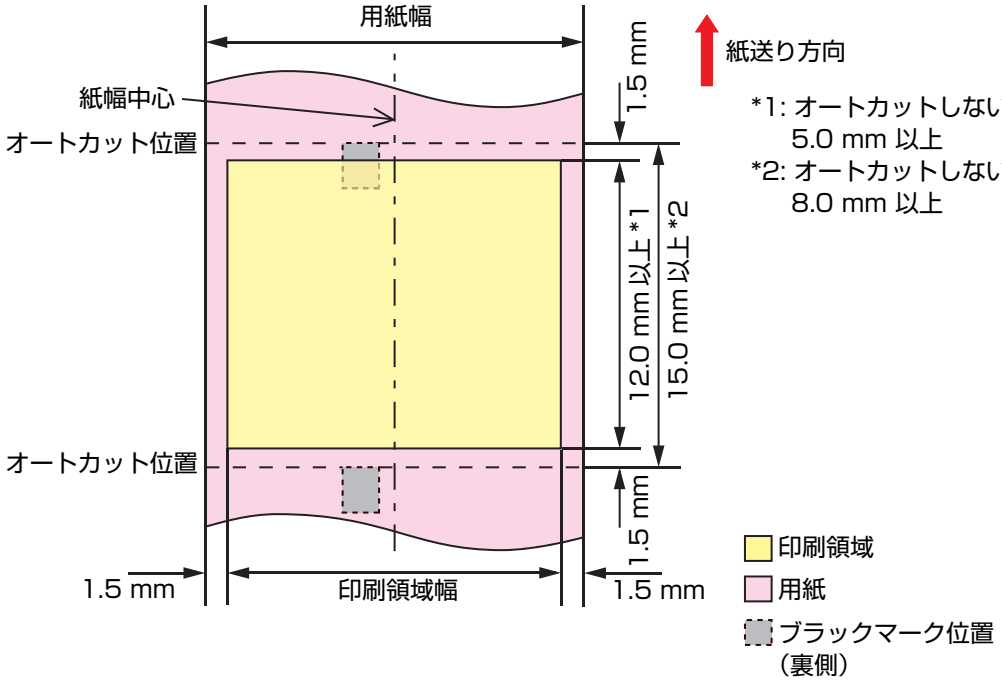
上下左右余白：0 mm（中心値）



参考	印刷領域幅の最大値は 104 mm です。

「フチなし」無効時

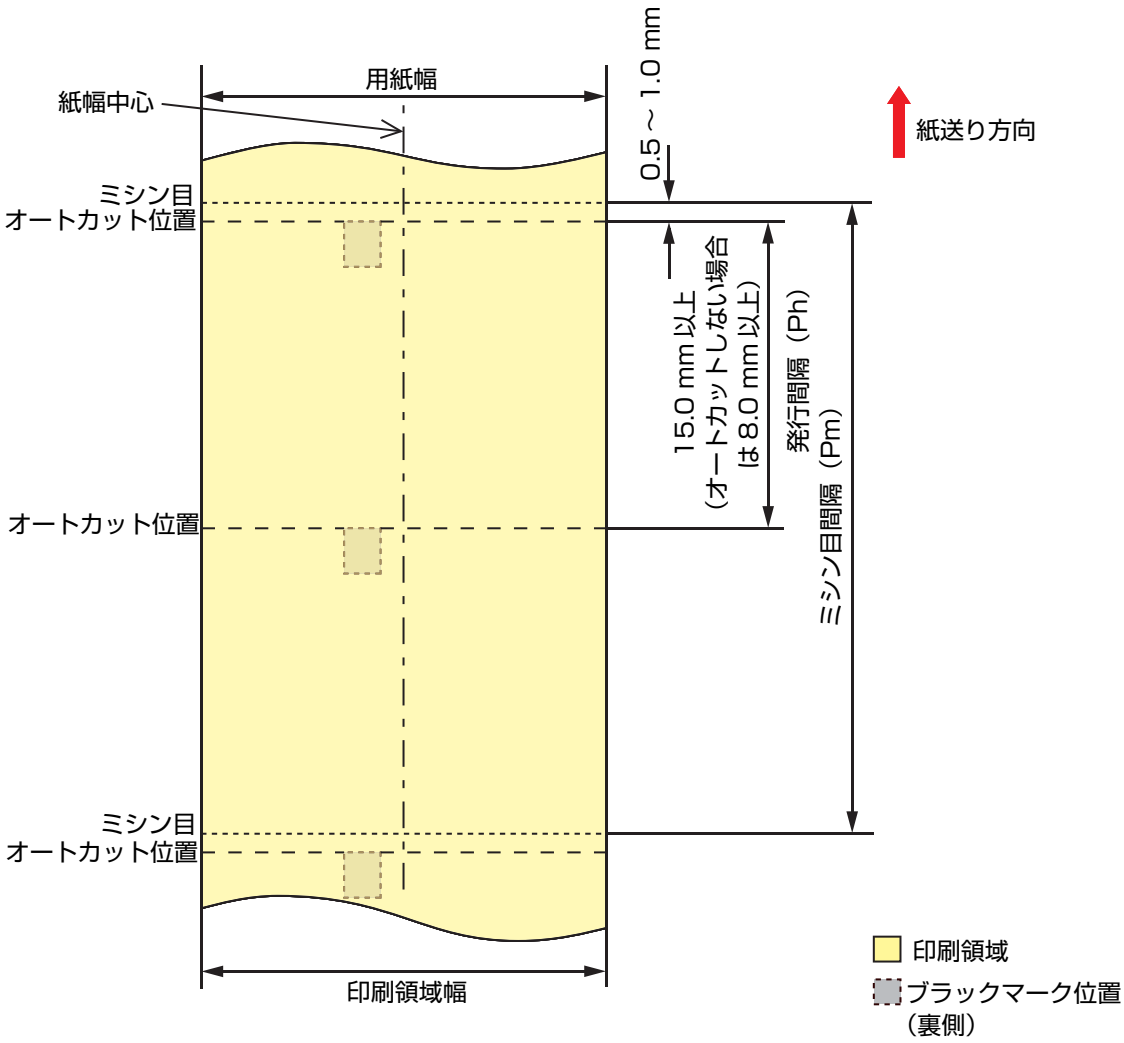
上下左右余白：1.5 mm（中心値）



連続紙（ブラックマーク基準）・ファンフォールド紙

「フチなし」有効時

上下左右余白：0 mm（中心値）

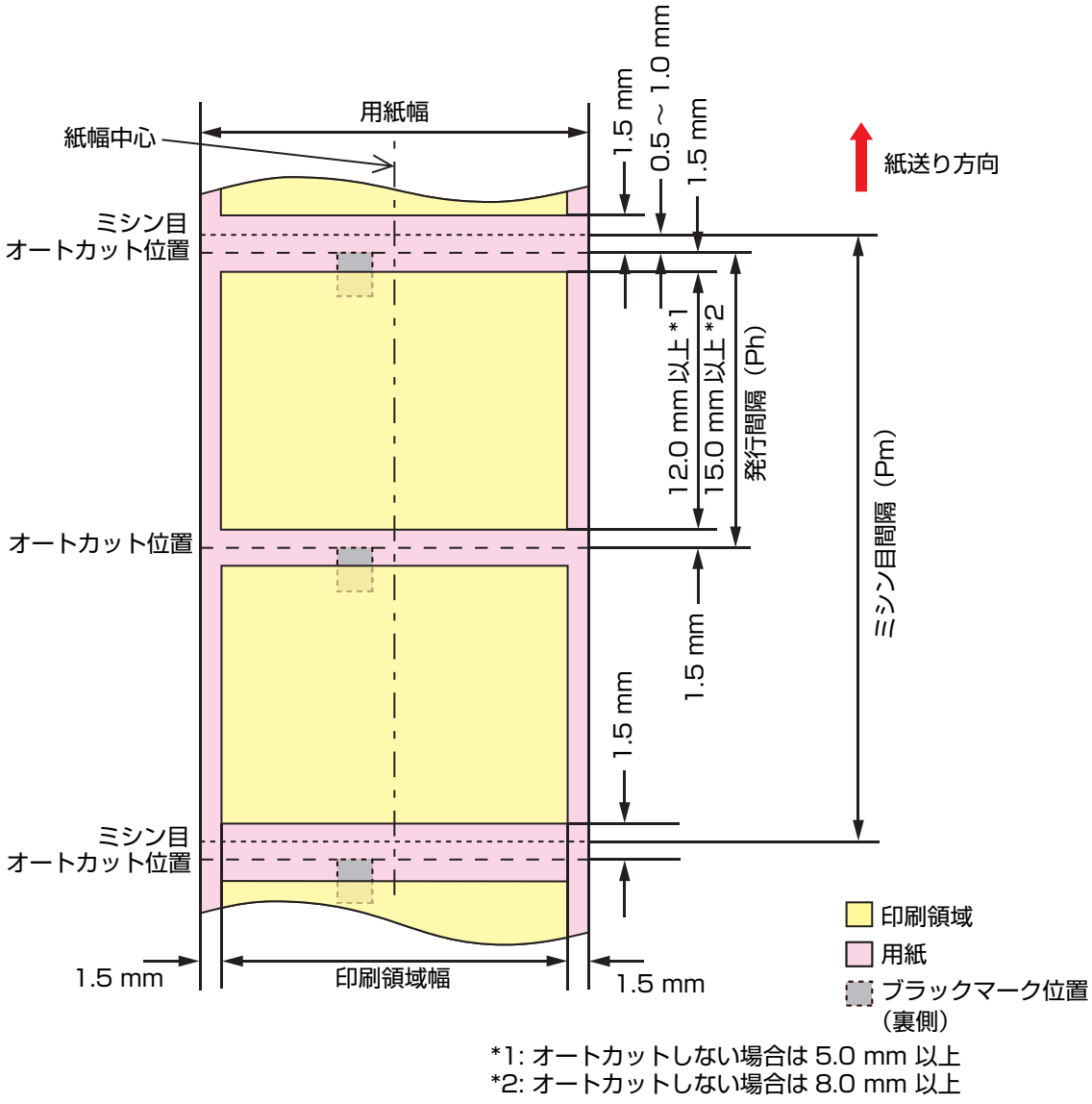


重要	ミシン目間隔は、発行間隔の整数倍になるようにしてください。

参考	印刷領域幅の最大値は 104 mm です。

「フチなし」無効時

上下左右余白：1.5 mm（中心値）



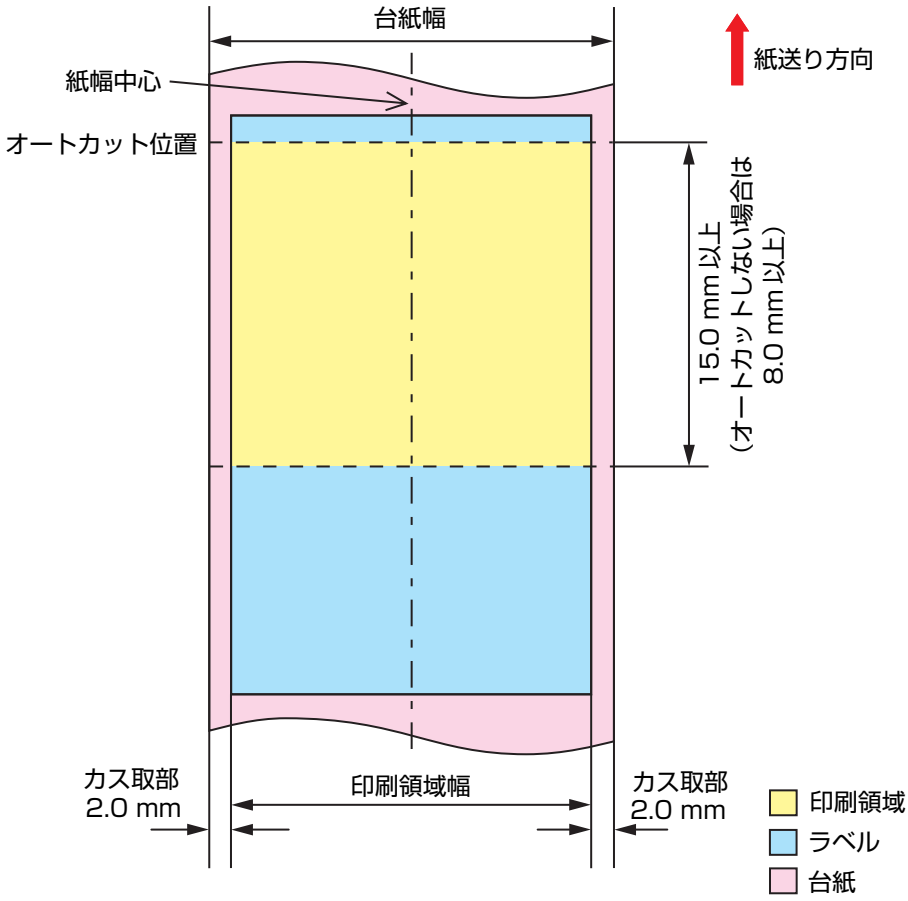
*1: オートカットしない場合は 5.0 mm 以上
*2: オートカットしない場合は 8.0 mm 以上

重要	発行間隔（Pm）とミシン目間隔（Ph）が以下の関係になるよう調整してください。 Pm=Ph × 整数倍

全面ラベル・ロール紙

「フチなし」有効時

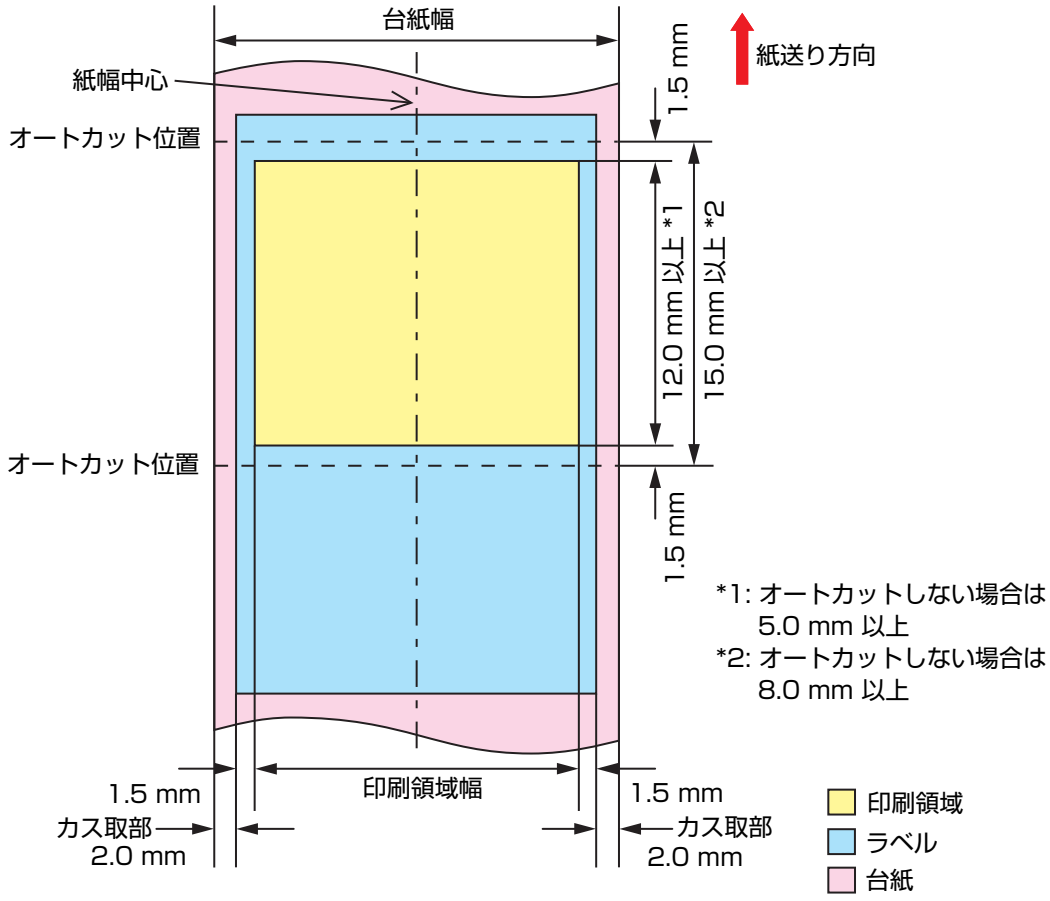
上下左右余白（ラベル内）：0 mm（中心値）



参考	印刷領域幅の最大値は 104 mm です。

「フチなし」無効時

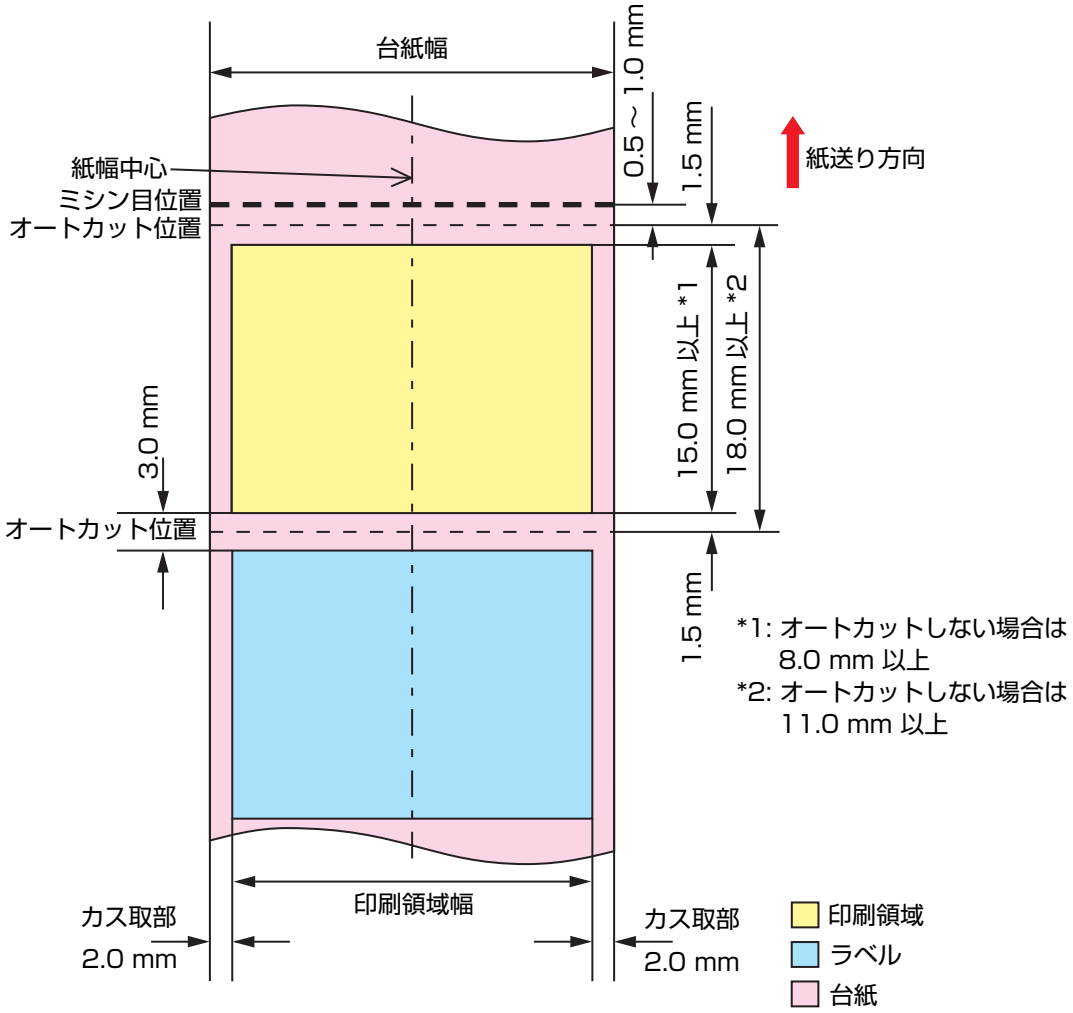
上下左右余白（ラベル内）：1.5 mm（中心値）



ダイカットラベル（ギャップ基準）・ロール紙

「フチなし」有効時

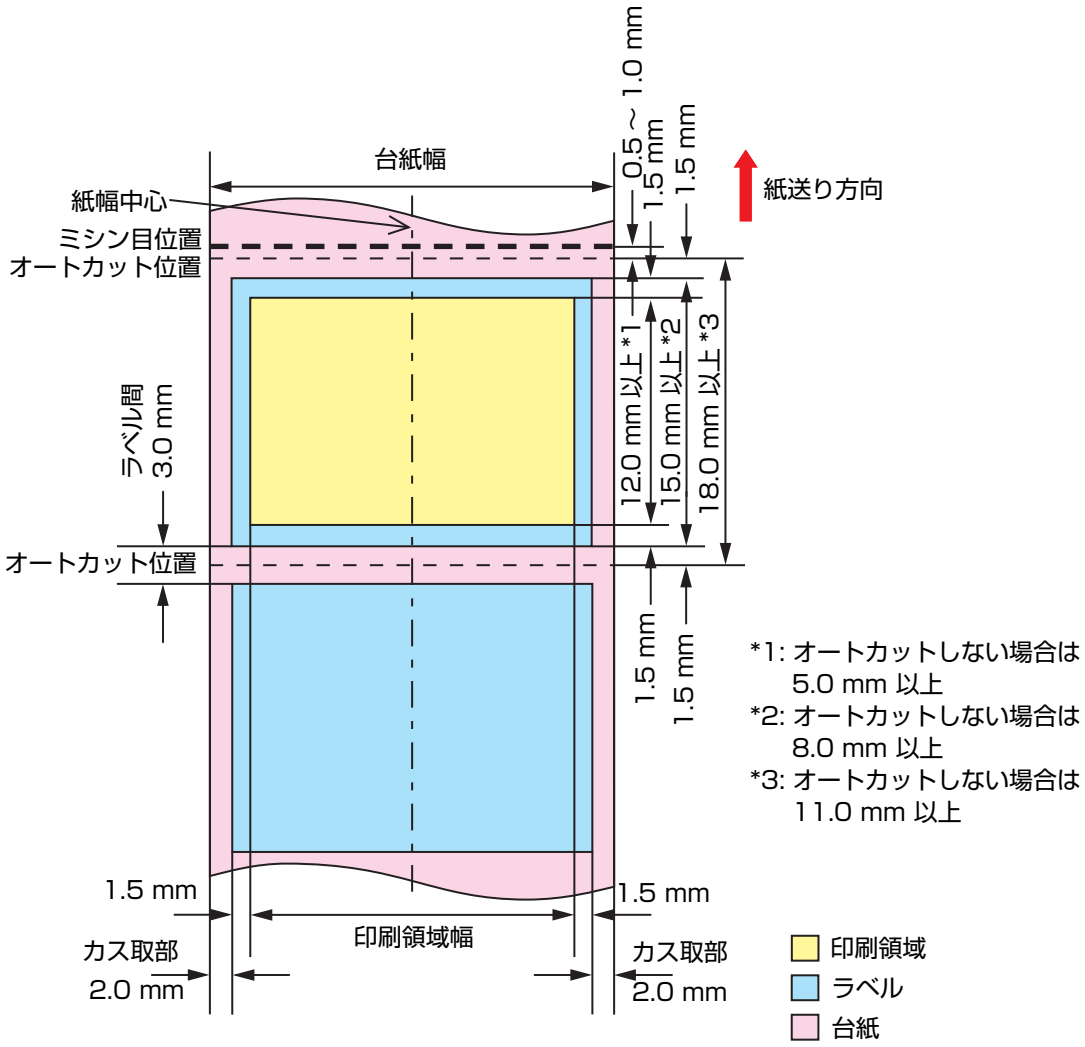
上下左右余白（ラベル内）：0 mm（中心値）



参考	印刷領域幅の最大値は 104 mm です。

「フチなし」無効時

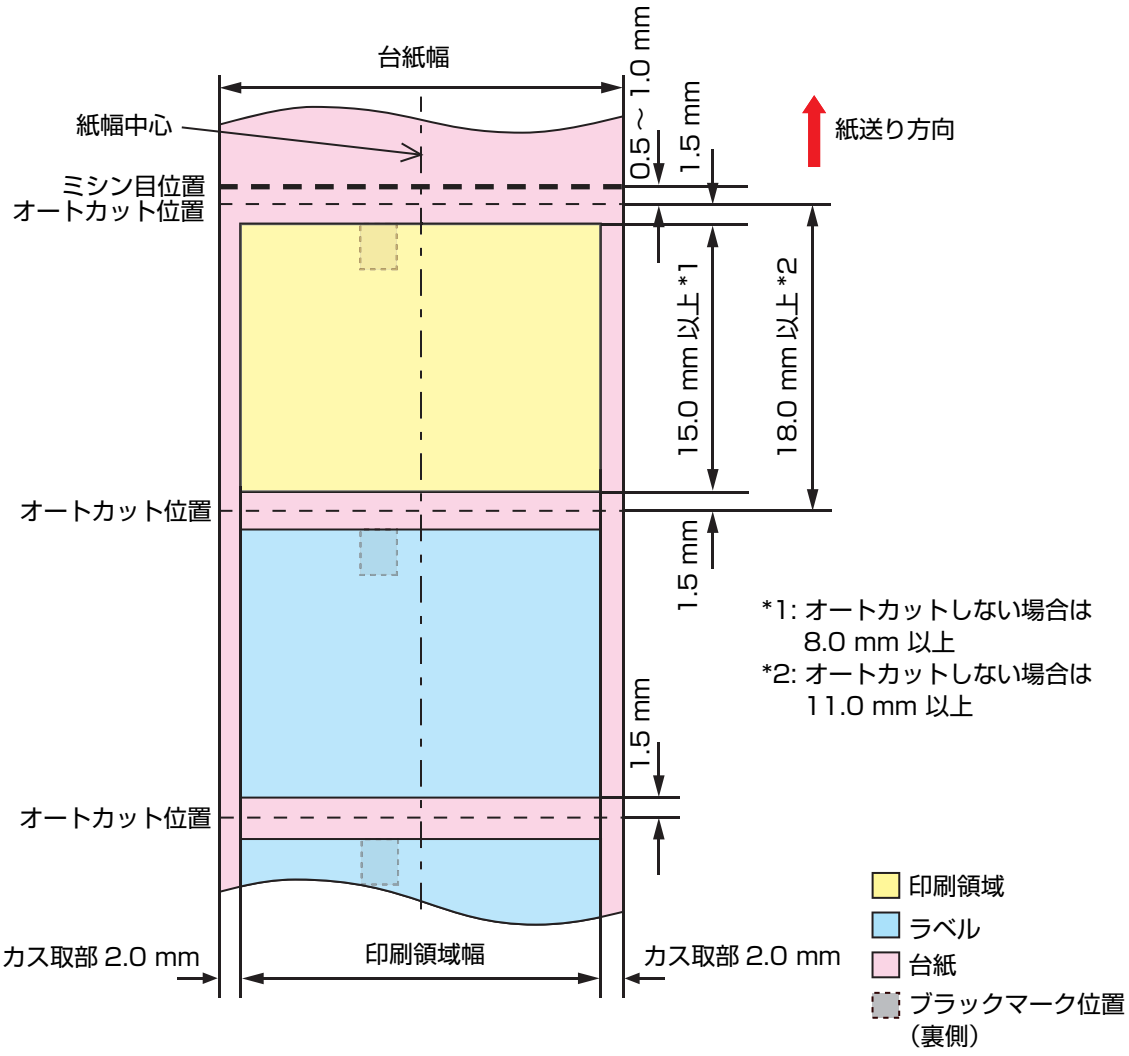
上下左右余白（ラベル内）：1.5 mm（中心値）



ダイカットラベル（ブラックマーク基準）・ロール紙

「フチなし」有効時

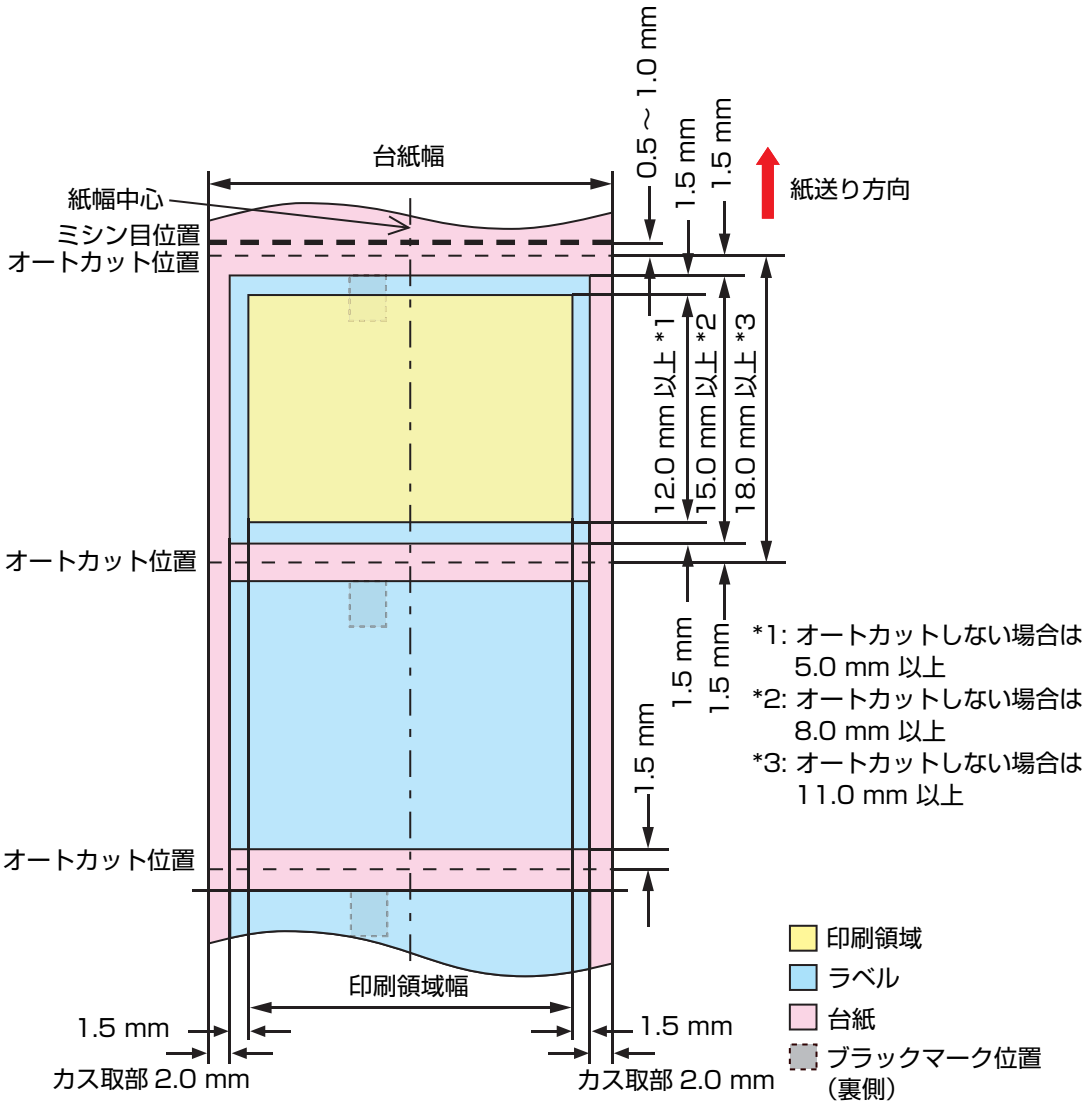
上下左右余白（ラベル内）：0 mm（中心値）



参考	印刷領域幅の最大値は 104 mm です。

「フチなし」無効時

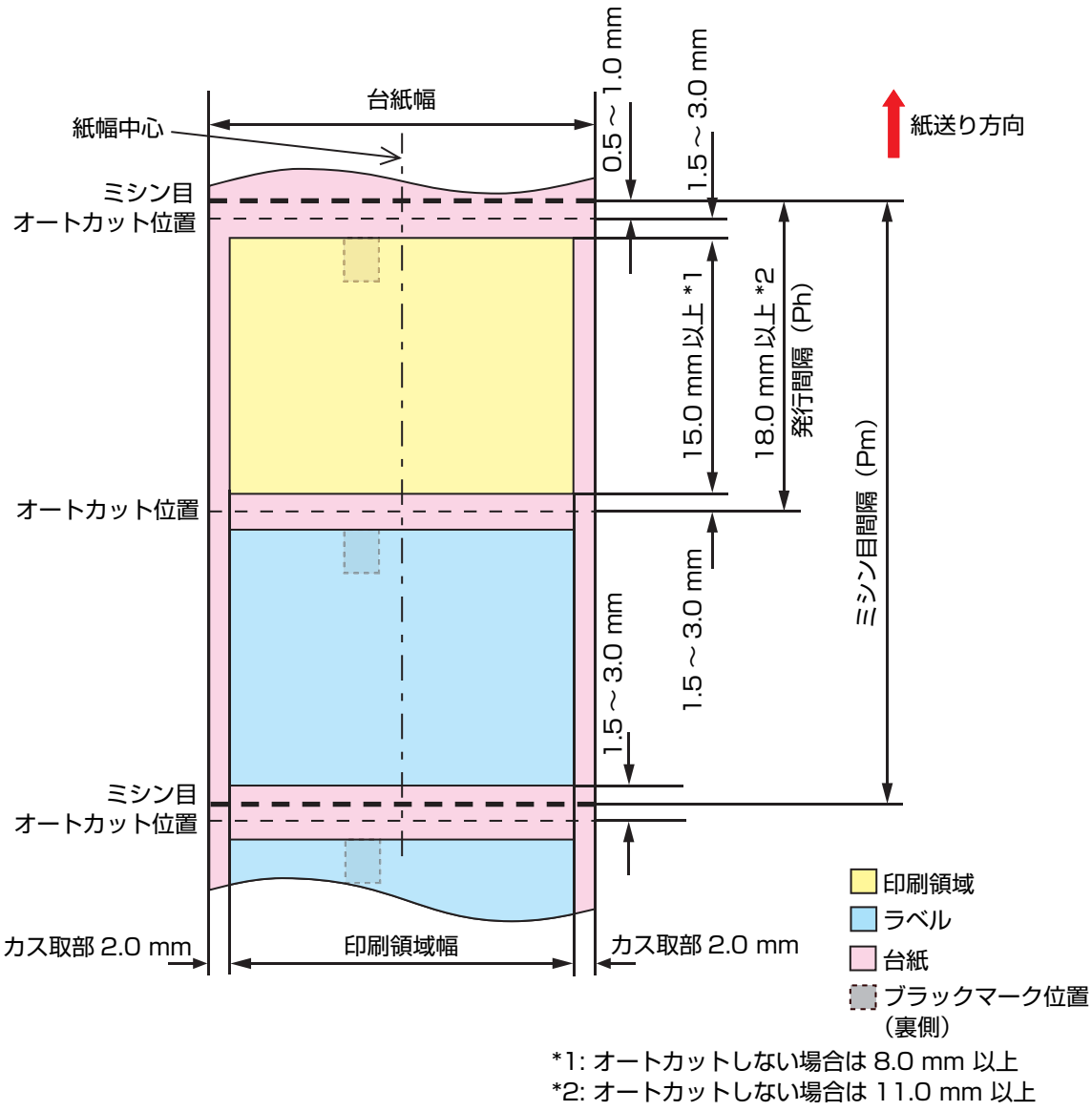
上下左右余白（ラベル内）：1.5 mm（中心値）



ダイカットラベル（ブラックマーク基準）・ファンフォールド紙

「フチなし」有効時

上下左右余白（ラベル内）：0 mm（中心値）

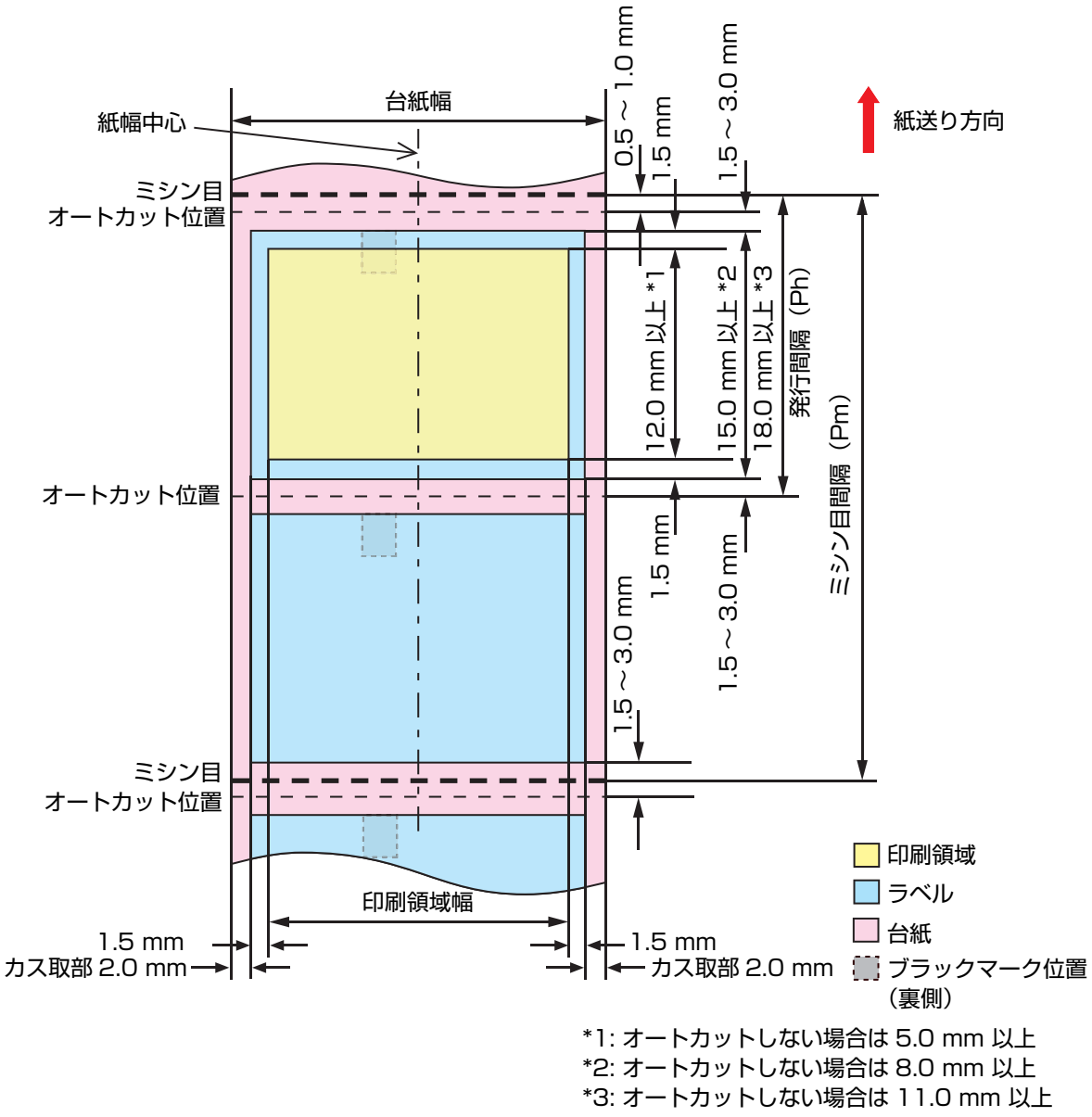


*1: オートカットしない場合は 8.0 mm 以上
*2: オートカットしない場合は 11.0 mm 以上

重要	• ミシン目間隔は、発行間隔の整数倍になるようにしてください。 • ミシン目と印刷領域の重なりによる印字の乱れ、またはミシン目とオートカッター位置の重なりによるカッタ寿命の低下を防ぐため、裏面にブラックマークのある用紙を使用し、用紙の位置合わせを行ってください。
参考	印刷領域幅の最大値は 104 mm です。

「フチなし」無効時

上下左右余白（ラベル内）：1.5 mm（中心値）



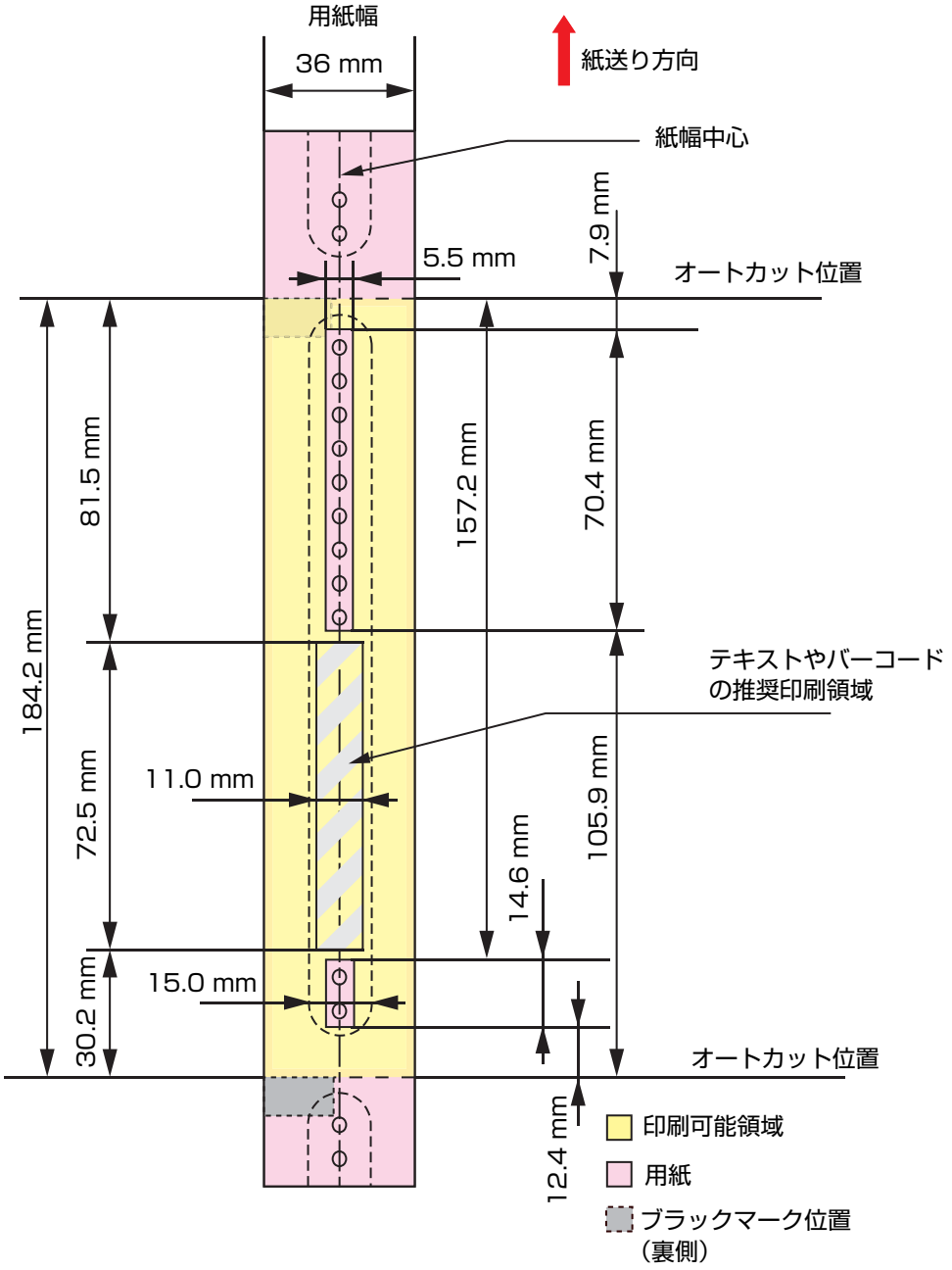
*1: オートカットしない場合は 5.0 mm 以上
*2: オートカットしない場合は 8.0 mm 以上
*3: オートカットしない場合は 11.0 mm 以上

重要

- ミシン目間隔は、発行間隔の整数倍になるようにしてください。
- ミシン目と印刷領域の重なりによる印字の乱れ、またはミシン目とオートカッター位置の重なりによるカッタ寿命の低下を防ぐため、裏面にブラックマークのある用紙を使用し、用紙の位置合わせを行ってください。

「フチなし」有効時

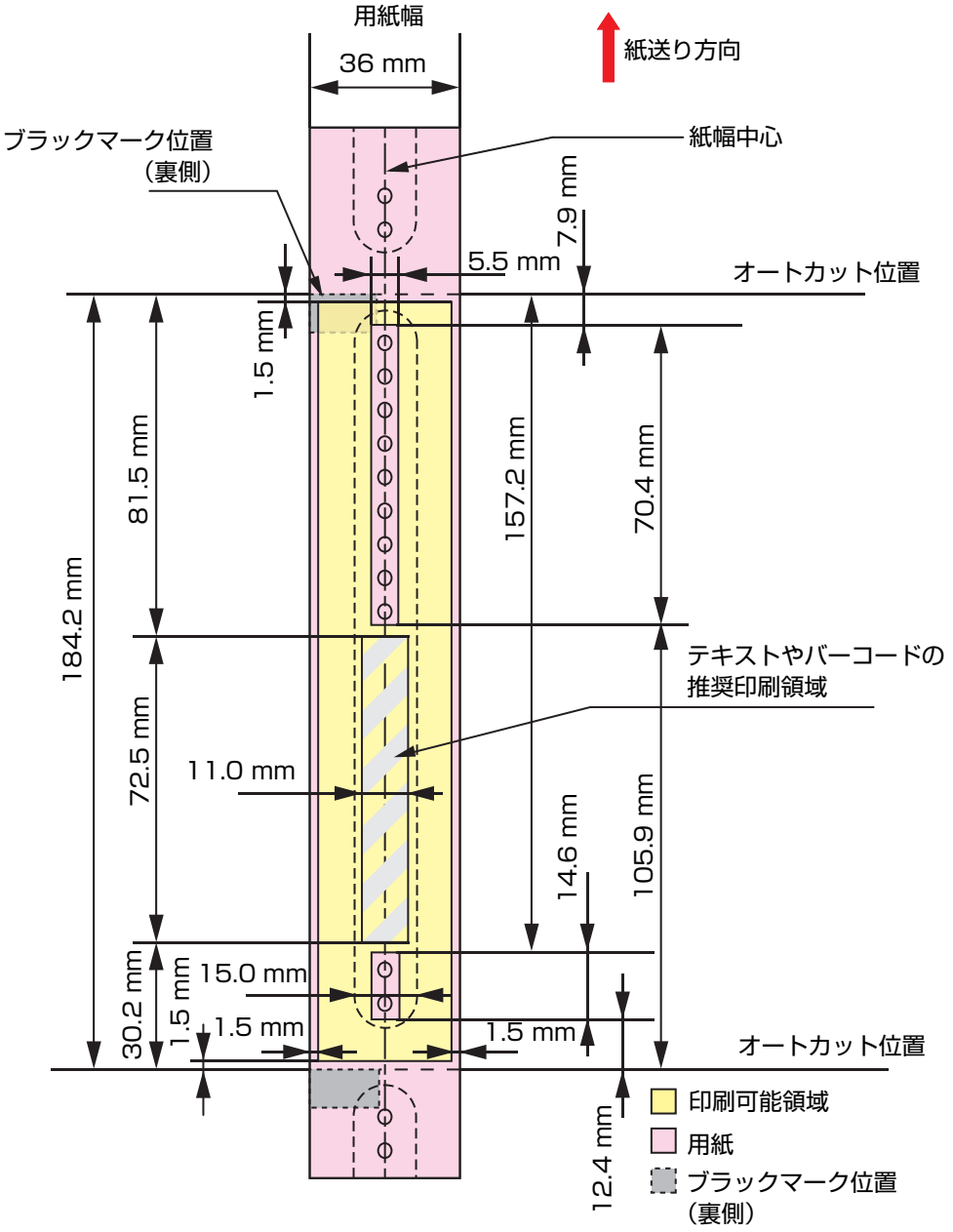
上下左右余白：0 mm（中心値）



重要	• スナップ取り付け用の穴の上と、穴の近傍 2 mm は印刷しないでください。 • WB-S/M/L シリーズを使用する場合、アタッチメント（OT-WA34）を使用してください。

「フチなし」無効時

上下左右余白：1.5 mm（中心値）

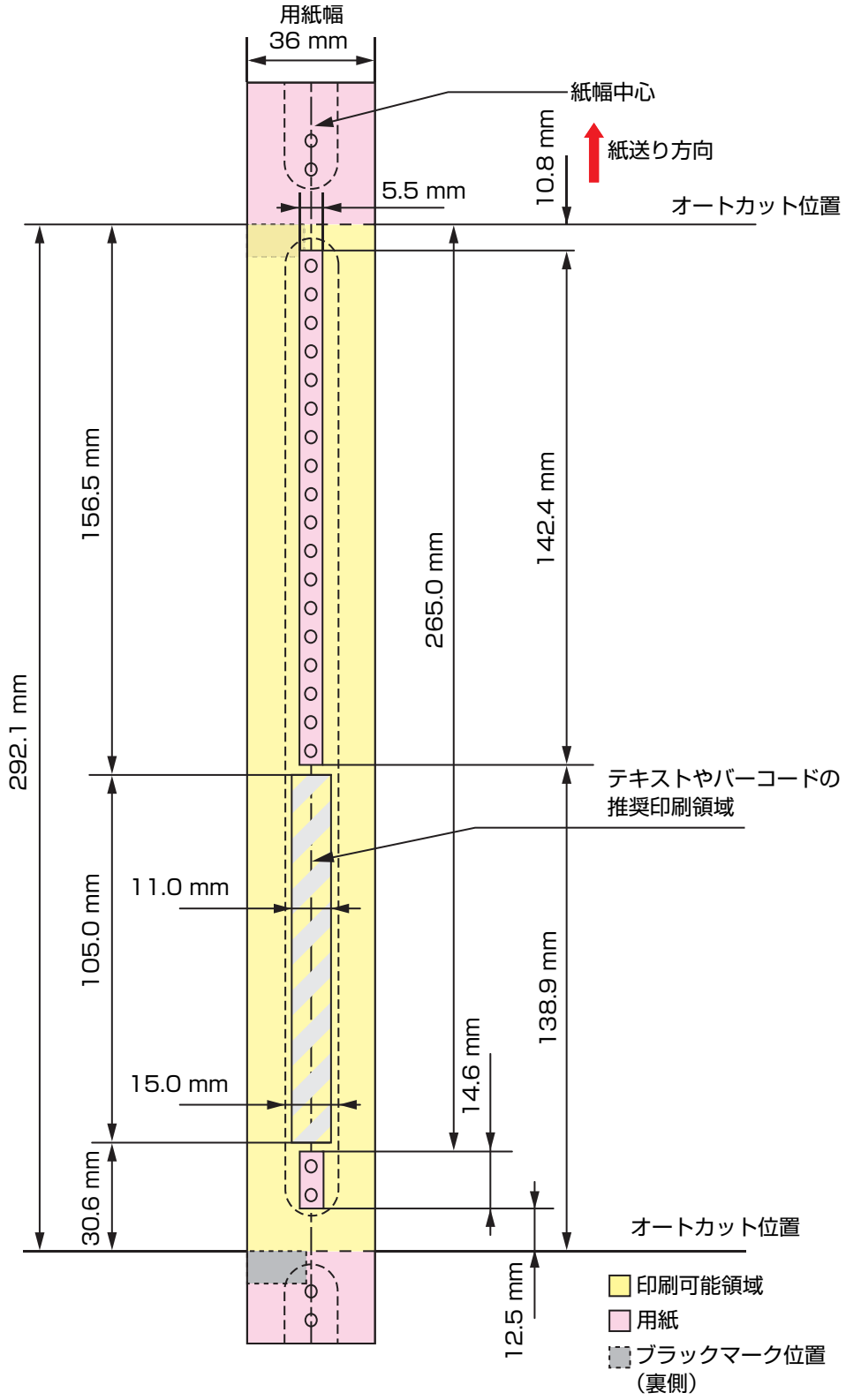


重要

- スナップ取り付け用の穴の上と、穴の近傍 2 mm は印刷しないでください。
- WB-S/M/L シリーズを使用する場合、アタッチメント（OT-WA34）を使用してください。

「フチなし」有効時

上下左右余白：0 mm（中心値）

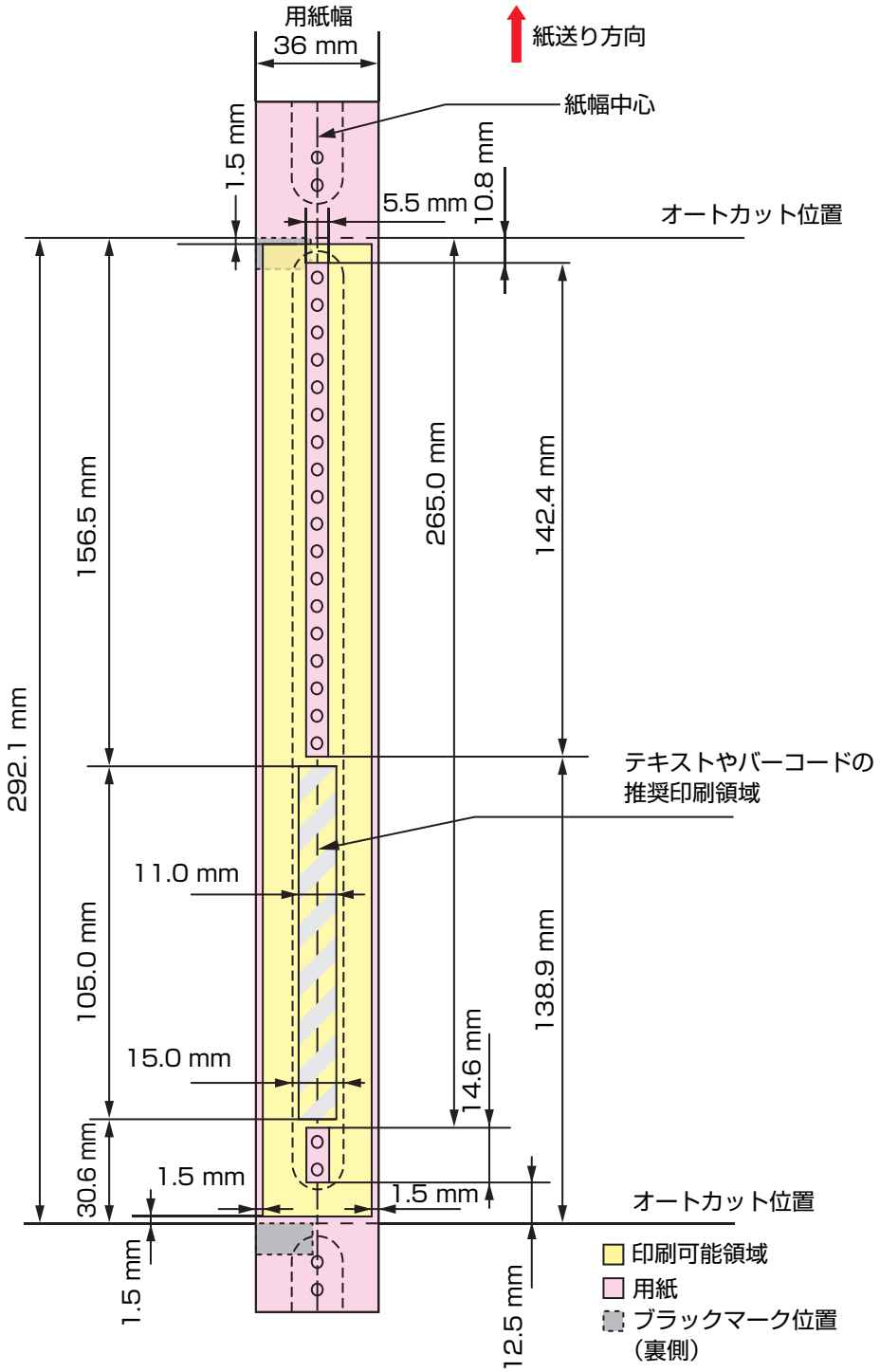


重要

- スナップ取り付け用の穴の上と、穴の近傍 2 mm は印刷しないでください。
- WB-S/M/L シリーズを使用する場合、アタッチメント（OT-WA34）を使用してください。

「フチなし」無効時

上下左右余白：1.5 mm（中心値）

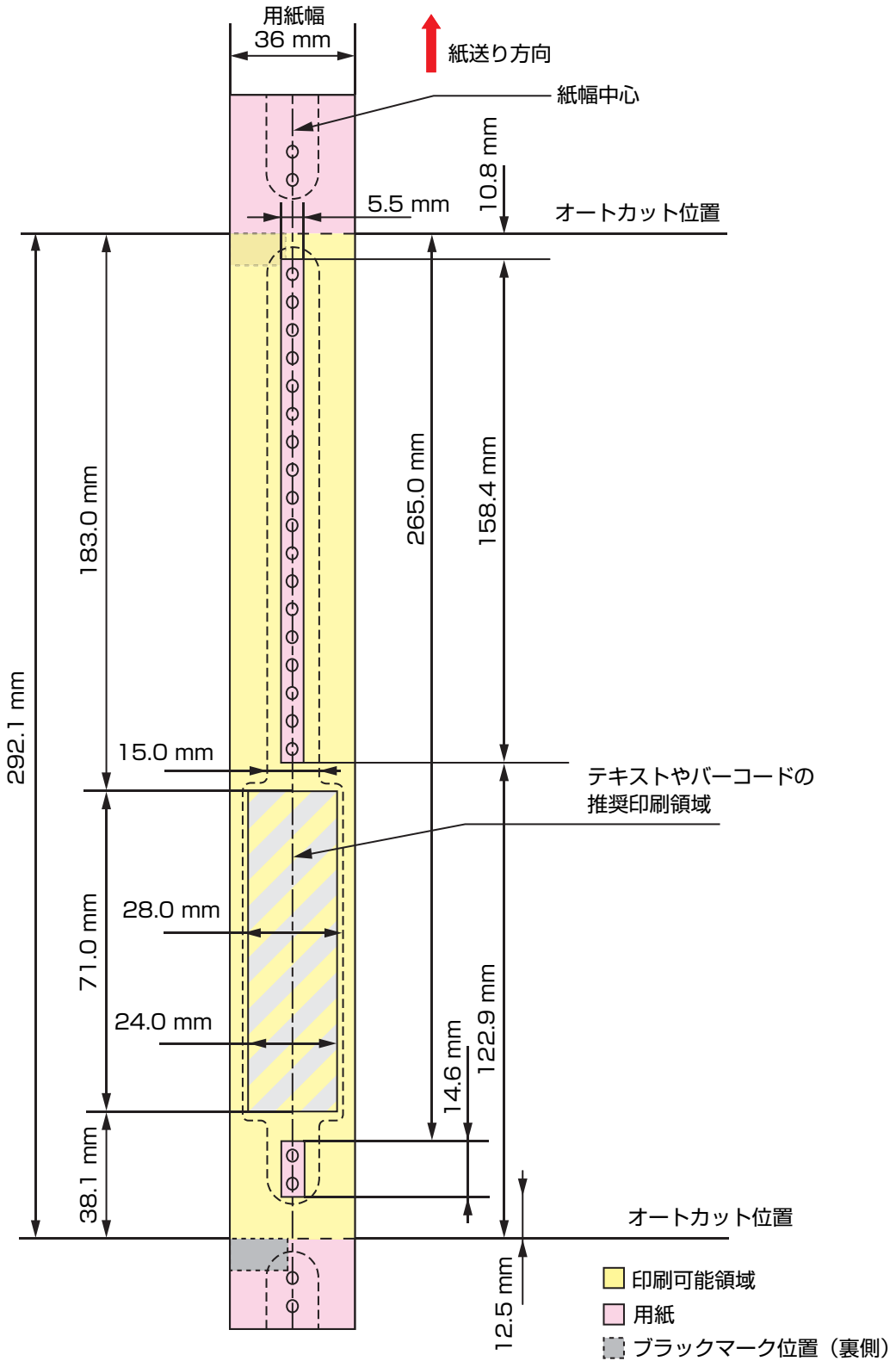


重要

- スナップ取り付け用の穴の上と、穴の近傍 2 mm は印刷しないでください。
- WB-S/M/L シリーズを使用する場合、アタッチメント（OT-WA34）を使用してください。

「フチなし」有効時

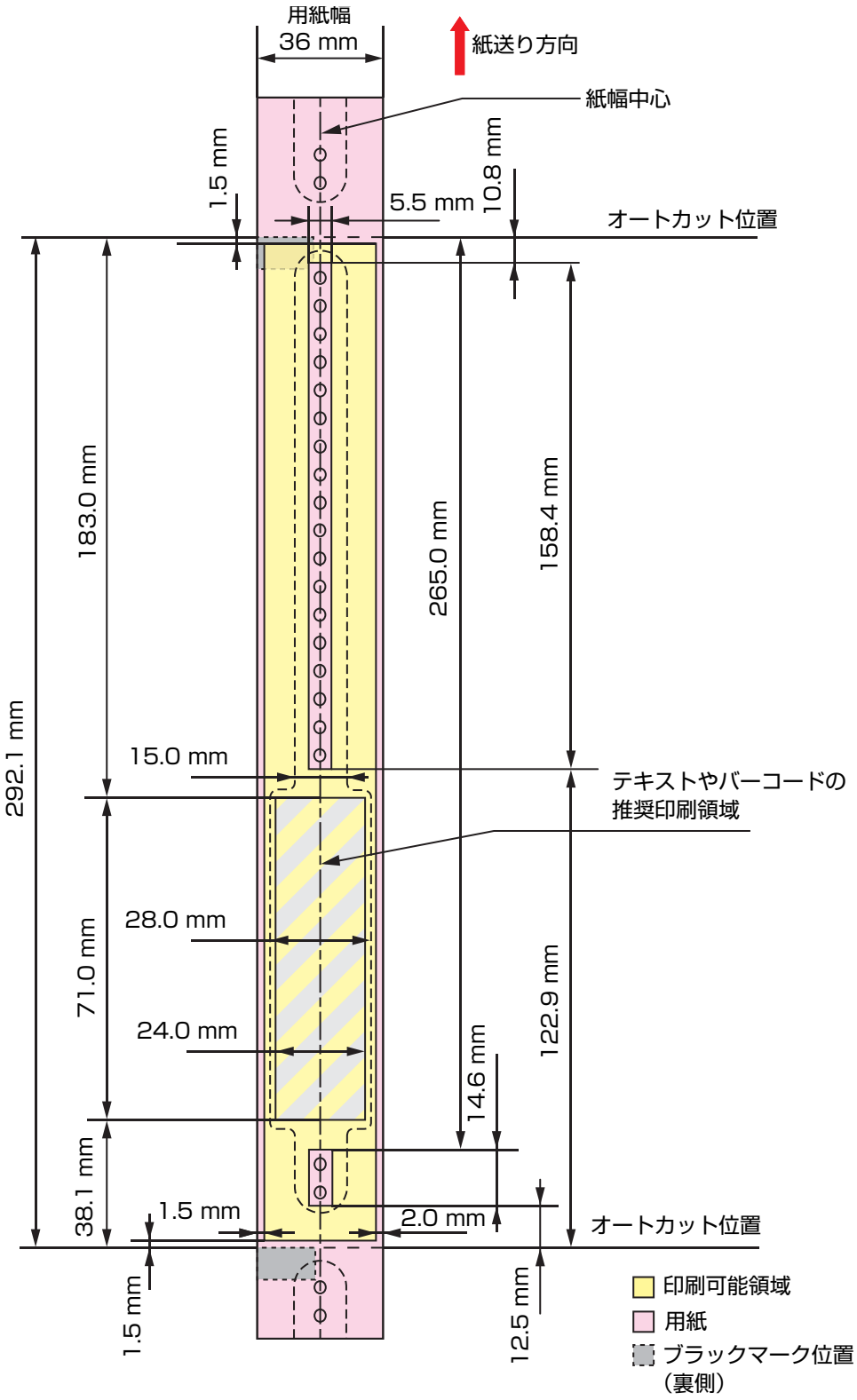
上下左右余白：0 mm（中心値）



重要	• スナップ取り付け用の穴の上と、穴の近傍 2 mm は印刷しないでください。 • WB-S/M/L シリーズを使用する場合、アタッチメント（OT-WA34）を使用してください。

「フチなし」無効時

上下左右余白：1.5 mm（中心値）



重要

- スナップ取り付け用の穴の上と、穴の近傍 2 mm は印刷しないでください。
- WB-S/M/L シリーズを使用する場合、アタッチメント（OT-WA34）を使用してください。

印刷しないラベルを発生させないための用紙加工

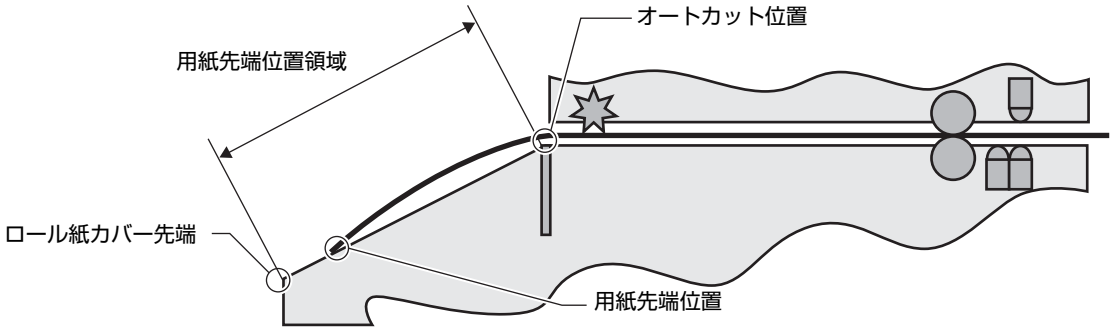
ダイカットラベル紙や連続紙 (ブラックマーク基準) の場合、ラベルの 1 枚目を印刷しないで紙送りしたり、紙無し検出時にまだ印刷できるラベルが残っていたりすることがあります。ここでは、そのようなラベルを発生させないための、用紙の加工と設定方法について説明します。

給紙時に 1 枚目のラベルから印刷する

本製品は、ページの先頭を検出するため、用紙をセットした後に一定量の紙送りを行います。その結果、1 枚目のラベルに印字できないことがあります。ここでは 1 枚目のラベルから印刷するための、用紙のセット方法と用紙の加工について説明します。

用紙のセット

給紙時に、ロール紙の先端がオートカット位置と排出テーブル先端の間にあることを確認し、ロール紙カバー を閉じます。



ロール紙

対応可能な用紙形態は以下のとおりです。

- 連続紙（ブラックマーク基準）
- ダイカットラベル（ブラックマーク基準）
- ダイカットラベル (ギャップ基準)
- 透明台紙ダイカットラベル

用紙加工方法

- 連続紙（ブラックマーク基準）
  用紙先端から 172.5 ～ 200 mm の位置に最初のブラックマーク先端を設けます。
  用紙先端から 172.5 mm 未満の位置にはブラックマークを設けないでください。

- ダイカットラベル (ブラックマーク基準)、ダイカットラベル (ギャップ基準)、透明台紙ダイカットラベル
  用紙先端から 172.5 ～ 200 mm の位置に最初のラベル先端を設けます。
  用紙先端から 172.5 mm 未満の位置にはラベル、およびブラックマークを設けないで、台紙のみの状態としてください。

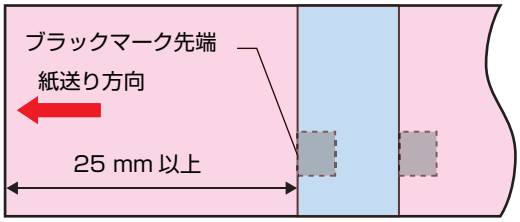
ファンフォールド紙

対応可能な用紙形態は以下のとおりです。

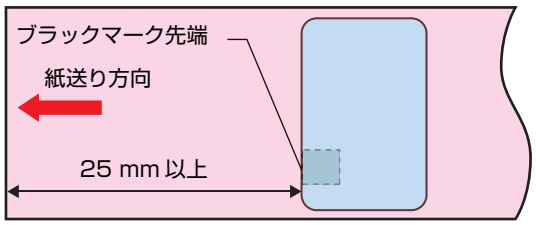
- 連続紙（ブラックマーク基準）
- ダイカットラベル（ブラックマーク基準）

用紙加工方法

- 連続紙（ブラックマーク基準）
  用紙先端から 25 mm 以上離れた位置に最初のブラックマーク先端を設けます。
  用紙先端から 25 mm 未満の位置にはブラックマークを設けないでください。



- ダイカットラベル（ブラックマーク基準）
  用紙先端から 25 mm 以上離れた位置に最初のラベル先端を設けます。
  用紙先端から 25 mm 未満の位置にはラベル、およびブラックマークを設けないで、台紙のみの状態としてください。



最後のラベルに印刷する

用紙無し検出時にまだ印刷できるラベルが残っていることがあります。ここでは、セットした用紙の最後のラベルに印刷するための、プリンタードライバーおよび本製品の設定と用紙加工について説明します。

プリンタードライバーの設定確認

プリンタードライバーに**オートカットしない (ハクリ位置まで移動)** が選択されていないことを確認します。以下の手順でプリンタードライバーの設定確認をします。

1. プリンタードライバーを表示します。
2. **基本設定**タブを選択し、**用紙定義**を選択します。
3. 使用する用紙定義を選択し、**編集**をクリックします。
4. **印刷後用紙動作設定**に**オートカットしない（ハクリ位置まで移動）**が選択されていないことを確認します。

本製品の設定

PrnterSetting で、**用紙違い通知設定**を有効にします。以下の手順で本製品の設定をします。

1. プリンタードライバーを表示します。
2. **プリンターユーティリティー**タブを選択し、**プリンターの設定**をクリックします。
   TM-C3500 PrinterSetting 画面が表示されます。
3. **高度な設定**の**通知設定**を選択します。
   通知設定画面が表示されます。
4. **用紙違い通知設定**プルダウンメニューから、**エラー通知する**を選択します。
5. **設定を反映**をクリックします。

以上で設定が有効になります。

ロール紙の加工

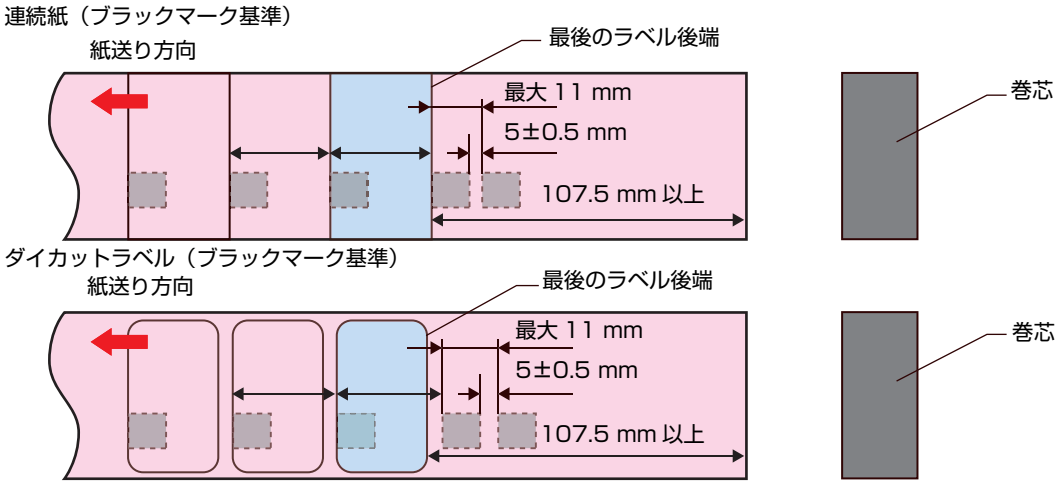
加工できる用紙形態は以下のとおりです。

- 連続紙（ブラックマーク基準）
- ダイカットラベル（ブラックマーク基準）
- ダイカットラベル（ギャップ基準）
- 透明台紙ダイカットラベル

加工方法

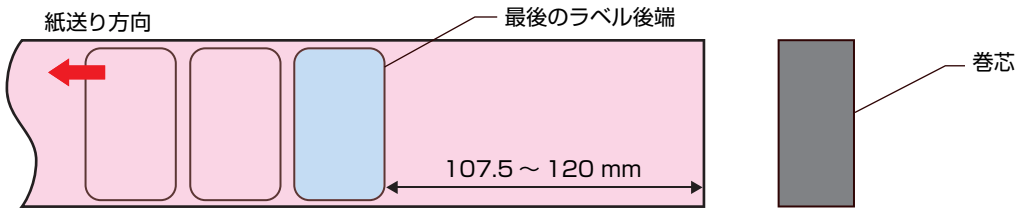
- 連続紙（ブラックマーク基準）、ダイカットラベル（ブラックマーク基準）
  用紙後端と、印刷する最後のチケットやラベルの後端の間に 107.5 mm 以上の余白を設けます。用紙後端から 107.5 mm 未満の位置にはラベルを設けず、台紙のみの状態としてください。印刷する最後のチケットやラベルの後ろに、ブラックマークを 2 つ設けます。

参考	最後のチケットやラベルの印刷処理（オートカットを含む）が正常終了した後、新たな印刷データを本製品に送信した場合、**用紙サイズエラー**が発生し、印刷データを保持した状態で本製品は停止します。



- ダイカットラベル (ギャップ基準)、透明台紙ダイカットラベル
  用紙後端と、印刷する最後のチケットやラベルの後端の間に 107.5 ～ 120 mm の余白を設けます。用紙後端から 107.5 mm 未満の位置にはラベルを設けず、台紙のみの状態としてください。

参考	最後のチケットやラベルの印刷終了後、**紙なしエラー**が発生し、本製品が停止します。



ファンフォールド紙の加工

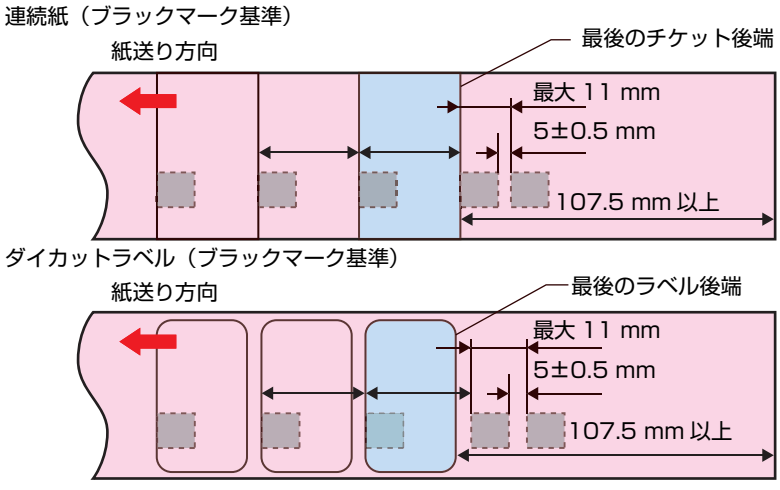
対応可能な用紙形態は以下のとおりです。

- 連続紙（ブラックマーク基準）
- ダイカットラベル（ブラックマーク基準）

用紙加工方法

用紙後端と、印刷する最後のチケットやラベルの後端の間に 107.5 mm 以上の余白を設けます。用紙後端から 107.5 mm 未満の位置にはラベルを設けず、台紙のみの状態としてください。
印刷する最後のチケットやラベルの後ろに、ブラックマークを 2 つ設けます。

参考	最後のチケットやラベルの印刷処理 (オートカットを含む) が正常終了した後、新たな印刷データを本製品に送信した場合、**用紙サイズエラー**が発生し、印刷データを保持した状態で本製品は停止します。



プリンター管理

本章では、複数のプリンターとクライアントコンピューターを運用するシステムの管理者向けに、効率的なセットアップと管理方法について説明します。

ソフトウェア

システム管理者向けに、以下のソフトウェアを用意しています。

名称	概要
Install Navi	本製品をセットアップするためのソフトウェアです。ウィザード形式で、プリンタードライバーのインストールと本製品の初期設定を行います。
TM-C3500 プリンタードライバー	Windows アプリケーションから印刷するためのドライバーです。ドライバーから、プリンターの設定をするためのユーティリティー（PrinterSetting）を起動できます。
EpsonNet Config	本製品の、ネットワーク設定を変更するためのソフトウェアです。
USBプリンタークラスデバイス置き換えサービス	プリンター故障時の置き換え作業を支援するソフトウェアです。クライアントコンピューターに常駐させて、新しいプリンターを接続したときに、プリンタードライバーのUSB ポートを自動的に変更します。
EPSON Deployment Tool	プリンターとプリンタードライバーのセットアップと設定変更をサポートするソフトウェアです。
EPSON Monitoring Tool	ネットワークプリンターとコンピューターに接続されたプリンターの状態を監視したり、設定変更したりするソフトウェアです。
EpsonNet SetupManager	ドライバーの設定情報とプリンタードライバーから新たにインストールパッケージを作るソフトウェアです。

プリンターを効率的にセットアップする

ここでは、システム導入時にプリンターを効率的にセットアップする方法を説明します。

インク充てん前に本製品を設定する

ここでは、インク充てん前に本製品を設定する方法を説明します。
管理者コンピューターに必要なソフトウェアは以下のとおりです。

- プリンタードライバー
- EpsonNet Config ネットワークプリンターを設定する場合に必要です。

以下の手順で本製品を設定します。

1. 本製品を管理者のコンピューターに接続して電源をオンします。
2. プリンタードライバーの PrinterSetting を起動して、給紙装置の設定と用紙検出方法の設定をします。
3. ネットワークプリンターの場合は、EpsonNet Config を起動して、IP アドレスなどのネットワーク設定をします。
4. 本製品の電源をオフします。

以上でインク充てん前の設定は終了です。
その後のセットアップについては、ユーザーズガイドを参照してください。

複数のプリンターを効率的に設定する

ここでは、複数のプリンターを効率的に設定する方法を説明します。
管理者コンピューターに必要なソフトウェアは以下のとおりです。

- プリンタードライバー
- EPSON Deployment Tool

以下の手順でセットアップします。

1. PrinterSetting の設定ファイルと、ネットワークプリンターの場合は IP アドレスなどのネットワーク情報を入手します。

2. EPSON Deployment Tool の Printer Deployment に、設定ファイルとネットワーク設定を登録します。登録方法は、EPSON Deployment Tool に同梱されているユーザーズマニュアルを参照してください。

3. プリンターを接続し、EPSON Deployment Tool のリストから**設定**を選択して、**設定開始**をクリックします。プリンターの設定とネットワーク設定が自動で完了します。

以上でプリンターの設定は終了です。複数のプリンターを設定する場合は、手順 3 を繰り返し実行してください。
その後のセットアップについては、ユーザーズガイドを参照してください。

プリンタードライバーを効率的に設定する

ここでは、用紙定義やネットワークプリンターのポートを設定したドライバーインストールパッケージを作成して、クライアントコンピューターに配布する方法を説明します。

インストールパッケージの作成

ここでは、管理者コンピューターでプリンタードライバーのインストールパッケージを作成する方法を説明します。
管理者コンピューターに必要なソフトウェアは以下のとおりです。

- プリンタードライバー
- EPSON Deployment Tool
- EpsonNet SetupManager

以下の手順でインストールパッケージを作成します。

1. 管理者コンピューターに、プリンタードライバーの BSF ファイルと、ネットワークプリンターの場合はプリンターの IP アドレスを用意します。
2. EPSON Deployment Tool の Driver Deployment から、TM-C3500 のプリンタードライバーを選択し、EpsonNet SetupManager を起動します。
3. BSF ファイルを選択し、ネットワークプリンターの場合はプリンターの IP アドレスを設定して、プリンタードライバーのインストールパッケージを作成します。
   作成方法は、EPSON Deployment Tool に同梱されているユーザーズマニュアルを参照してください。

以上でインストールパッケージの作成は終了です。

クライアントコンピューターの作業

以下の手順でクライアントコンピューターの作業をします。

1. インストールパッケージファイルをクライアントコンピューターにコピーします。
2. ファイルをダブルクリックして実行します。

以上で、プリンタードライバーのインストールと設定は終了です。

効率的なシステム管理

ここでは、管理者コンピューターからシステムのプリンターの監視、設定変更、プリンタードライバーの設定変更、およびプリンターの交換を効率的に行う方法を説明します。

プリンターの監視

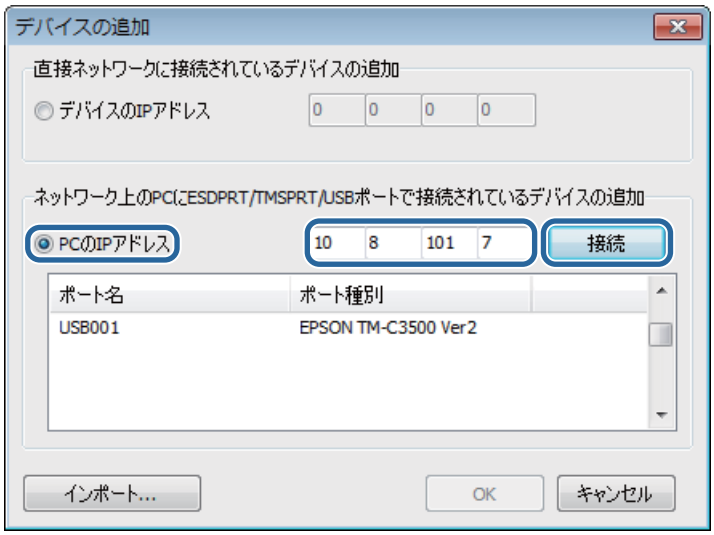
ネットワークプリンターと、クライアントコンピューターに接続されているプリンターのステータスを監視することができます。
必要なソフトウェアは以下のとおりです

- EPSON Monitoring Tool

プリンターの登録

ネットワークプリンターは、EPSON Monitoring Tool を起動すると表示されます。クライアントコンピューターに接続されているローカルプリンターは、以下の手順で登録します。

1. EPSON Monitoring Tool を起動します。
2. **ツール - デバイスの追加**を選択します。
   デバイスの追加画面が表示されます。
3. **PC の IP アドレス**を選択して、クライアントコンピューターの IP アドレスを入力します。
   接続をクリックすると、リストにプリンターが表示されます。

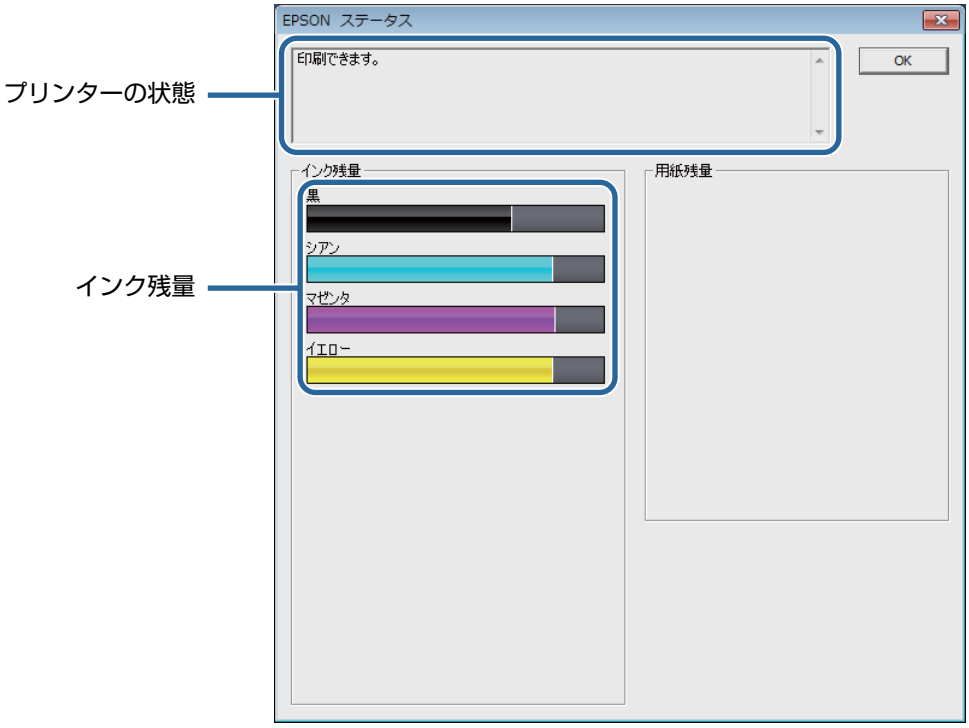


4 リストに追加されたプリンターを選択して、**OK** をクリックすると、**デバイスの追加**画面が閉じます。**EPSON Monitoring Tool** の画面に、クライアントコンピューターに接続されたローカルプリンターが表示されます。

以上で、クライアントコンピューターに接続されたローカルプリンターの登録は終了です。

プリンターのステータス確認

EPSON Monitoring Tool のリストに表示されているプリンターをダブルクリックすると、**EPSON ステータス**画面が表示されます。プリンターの状態とインク残量を確認できます。



プリンターの設定を変更する

ネットワークプリンターとクライアントコンピューターに接続されているプリンターの設定を、管理者コンピューターから変更できます。
必要なソフトウェアは以下のとおりです。

- EPSON Monitoring Tool

以下の手順で設定変更します。

1. PrinterSetting の設定ファイルを用意します。
2. EPSON Monitoring Tool に、クライアントコンピューターに接続されているローカルプリンターを登録します。登録方法は、87 ページ「プリンターの監視」を参照してください。
3. EPSON Monitoring Tool の画面から設定変更するプリンターを選択します。画面の指示に従って PrinterSetting の設定ファイルを登録して、設定変更してください。

以上でプリンターの設定変更は終了です。

プリンタードライバーの設定を変更する

用紙定義を追加したり、ネットワークプリンターの変更でポートを変更したりする場合などに、クライアントコンピューターのプリンタードライバーの設定を変更するパッケージを作成します。
管理者コンピューターに必要なソフトウェアは以下のとおりです。

- プリンタードライバー
- EPSON Deployment Tool

設定パッケージの作成

以下の手順で設定パッケージの作成をします。

1. 管理者のコンピューターに、プリンタードライバーの設定ファイル（BSF ファイル）を用意します。

2. EPSON Deployment Tool の Driver Deployment で、設定変更パッケージを作成します。作成方法は、EPSON Deployment Tool のユーザーズマニュアルを参照してください。

以上で設定変更パッケージの作成は終了です。

クライアントコンピューターの作業

以下の手順でクライアントコンピューターの作業をします。

1. インストールパッケージファイルをクライアントコンピューターにコピーします。

2. ファイルをダブルクリックして実行します。

以上で、プリンタードライバーの設定変更は終了です。

プリンタードライバーの USB ポートを自動で変更

USB 接続の場合、コンピューターに新しいプリンターを接続すると新しいキューが生成されます。既存のドライバーから新しいプリンターに印刷するには、プリンタードライバーのポートを新しいプリンターに設定する必要があります。

クライアントコンピューターに USB プリンタークラスデバイス置き換えサービスをあらかじめインストールしておくと、プリンターを交換してもドライバーの USB ポートを自動で変更します。クライアントコンピューターのユーザーが設定し直す必要はありません。

参考	ネットワークプリンターの場合、新しいプリンターに既存プリンターの IP アドレスを設定するため、ドライバーの再設定は不要です。

インストール

以下の手順で USB プリンタークラスデバイス置き換えサービスをインストールします。

1. USBRepSv のファイルを解凍し、任意のフォルダーに展開します。
2. USBRepSv-UsbRepSv_xx_xxxx フォルダーの SETUPxx.exe をダブルクリックします。

以上で、USB プリンタークラスデバイス置き換えサービスのインストールは終了です。

アンインストール

USB プリンタークラス デバイス置き換えサービスは、コントロールパネルのプログラム一覧に表示されません。以下の手順で、USB プリンタークラスデバイス置き換えサービスをアンインストールしてください。

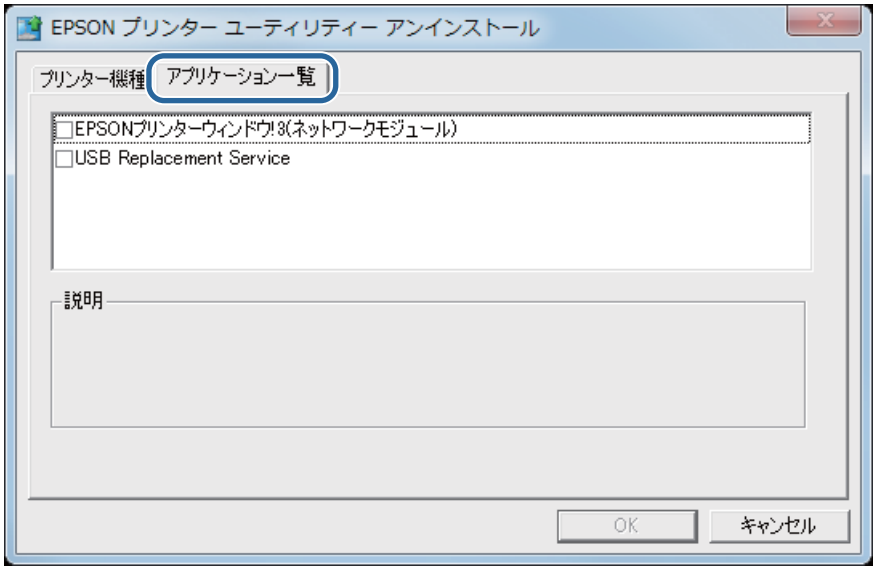
1 コンピューター上で起動しているすべてのアプリケーションを終了してください。

2 **プログラムのアンインストール**（または**プログラムの追加と削除**）を開きます。

- Windows 10 の場合：
  スタートを右クリックし、**コントロールパネル**を選択します。**プログラムのアンインストール**をクリックします。
- Windows 8.1/Windows 8 の場合：
  デスクトップのサイドバー設定から**コントロールパネル**を選択します。**プログラムのアンインストール**をクリックします。
- Windows 7 の場合：
  スタートメニューの**コントロールパネル**を選択します。**プログラムのアンインストール**をクリックします。
- Windows Vista の場合：
  スタートメニューの**コントロールパネル**を選択します。**プログラムのアンインストール**をクリックします。
- Windows XP Professional の場合：
  スタートメニューの**コントロールパネル**で**プログラムの追加と削除**をクリックします。
- Windows XP Home Edition の場合：
  スタートメニューの**コントロールパネル**で**プログラムの追加と削除**をクリックします。

3 **EPSON プリンタードライバー・ユーティリティー**を選択します。**アンインストールと変更**をクリックします。
EPSON プリンターユーティリティーアンインストール画面が表示されます。

4 **アプリケーション一覧**タブを選択します。



5 **USB Replacement Service** の項目をチェックし、**OK** をクリックします。
OK をクリックすると、アンインストールを開始します。
アンインストールの完了画面が表示されます。

6 **OK** をクリックします。

以上で、USB プリンタークラス デバイス置き換えサービスのアンインストールは終了です。

USB プリンタークラス デバイス置き換えサービスの制限事項

プリンターを置き換えたあと、" デバイスとプリンター " 画面で [通常使うプリンター] を示す緑色のチェックマークが、プリンターを置き換える前のプリンター上に表示されることがあります。または、チェックマークが表示されないことがあります。この場合には、以下の方法でチェックマークの表示を補正することができます。

- デスクトップ画面に戻り、再度**デバイスとプリンター**画面を開いてください。
- プリンタードライバーを右クリックして、**通常使うプリンターに設定**を選択してください。
- ユーザーアカウントをログオフしてオペレーティングシステムを再起動してください。

付録

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断で転載、複写、複製、改ざんすることは固くお断りします。
(2) 本書の内容については、予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、上項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
(5) 本製品がお客様により不適切に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者以外の第三者により修理･変更されたことなどに起因して生じた損害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
(6) エプソン純正品およびエプソン品質認定品以外のオプションまたは消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft®、Windows®、Windows Vista® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。

EPSON および EXCEED YOUR VISION はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。

その他の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

©Seiko Epson Corporation 2017. All rights reserved.